国立舞鶴高専

National Institute of Technology (KOSEN), Maizuru College

学校概要 2023

教育理念

広く工学の基礎と教養を身につけ、
問題発見・解決能力、創造力を有し、
地域・社会の発展に寄与できる国際感覚豊かな
実践的開発型技術者を育成する。

教育方針

Ⅰ　実験・実習、演習、ものつくりを重視する
Ⅱ　基礎に立ち返って考えさせる
Ⅲ　自ら学ぼうとする意欲を育てる
Ⅳ　豊かな教養と国際性を育む

目的

舞鶴工業高等専門学校の目的

舞鶴工業高等専門学校は、教育基本法（平成18年法律第120号）及び学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とし、その目的を実現するための教育を行いその成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。

準学士課程の目的

準学士課程は、専門分野の基礎知識を修得し、社会の変化やニーズに対応した製品やシステムをつくり出す能力と、豊かな人間性・国際性を兼ね備えた実践的・創造的技術者を育成することを目的とする。

各学科の人材養成の目的

1．機械工学科

あらゆるものづくりの基礎となる、機械工学の基礎知識と技術を修得し、環境とエネルギーに配慮できる実践的・創造的技術者を育成することを目的とする。

2．電気情報工学科

電気・電子工学及び情報・通信工学の分野の基礎知識と技術を修得し、環境とエネルギーに配慮できる実践的・創造的技術者を育成することを目的とする。

3．電子制御工学科

電子・機械システム及び制御・情報技術を幅広く修得し、それらを融合したメカトロニクス技術分野において、環境とエネルギーに配慮した設計・開発・管理運営ができる実践的・創造的技術者を育成することを目的とする。

4．建設システム工学科

安全で快適な社会の創造とそのための基盤を、計画・建設・維持する基礎知識と技術を修得し、環境とエネルギーに配慮できる実践的・創造的技術者を育成することを目的とする。

専攻科課程の目的

専攻科課程は、高等専門学校の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門知識及び技術を教授し、その研究を指導することを目的とする。

〈三つの方針〉

令和４年度以降入学者（準学士課程）

ディプロマ・ポリシー（卒業認定の方針）

■ 機械工学科

機械工学科では、本校準学士課程の目的に基づき、自らが継続的に学習することで、以下の目標を達成し、卒業の認定に関する規程に定める基準を満たした学生に卒業を認定します。

（ｉ）数学と自然科学を修得、専門分野に応用することができる。
（ii）専門分野の基礎を修得し、専門的な問題を解決するために活用できる。
（iii）専門的な実験を遂行・分析することができ、実習・演習により修得した実践技術をものづくりに活用できる。
（iv）修得した人文・社会科学の一般知識により広い視野を持ち、技術者として倫理的に行動し、異文化理解・交流を行うことができる。
（ｖ）地域、社会等の問題解決のために他者と協働し、修得した専門分野の知識・技術を融合して創造することができる。また、その成果を発表することができる。

なお、（ii）における専門分野は以下のとおりです。
（ii-m1）材料力学分野
（ii-m2）流体力学分野
（ii-m3）熱力学分野
（ii-m4）機械力学分野
（ii-m5）設計分野

■ 電気情報工学科

電気情報工学科では、本校準学士課程の目的に基づき、自らが継続的に学習することで、以下の目標を達成し、卒業の認定に関する規程に定める基準を満たした学生に卒業を認定します。

（ｉ）数学と自然科学を修得し、専門分野に応用することができる。
（ii）専門分野の基礎を修得し、専門的な問題を解決するために活用できる。
（iii）専門的な実験を遂行・分析することができ、実習・演習により修得した実践技術をものづくりに活用できる。
（iv）修得した人文・社会科学の一般知識により広い視野を持ち、技術者として倫理的に行動し、異文化理解・交流を行うことができる。
（ｖ）地域、社会等の問題解決のために他者と協働し、修得した専門分野の知識・技術を融合して創造することができる。また、その成果を発表することができる。

なお、（ii）における専門分野は以下のとおりです。
（ii-e1）電気分野
（ii-e2）電子分野
（ii-e3）情報分野
（ii-e4）通信分野

■ 電子制御工学科

電子制御工学科では、本校準学士課程の目的に基づき、自らが継続的に学習することで、以下の目標を達成し、卒業の認定に関する規程に定める基準を満たした学生に卒業を認定します。

（ｉ）数学と自然科学を修得し、専門分野に応用することができる。

（ii）専門分野の基礎を修得し、専門的な問題を解決するために活用できる。

（iii）専門的な実験を遂行・分析することができ、実習・演習により修得した実践技術をものづくりに活用できる。

（iv）修得した人文・社会科学の一般知識により広い視野を持ち、技術者として倫理的に行動し、異文化理解・交流を行うことができる。

（ｖ）地域、社会等の問題解決のために他者と協働し、修得した専門分野の知識・技術を融合して創造することができる。また、その成果を発表することができる。

なお、（ii）における専門分野は以下のとおりです。

（ii-s1）電気電子分野
（ii-s2）機械分野
（ii-s3）計測制御分野
（ii-s4）情報分野

■ 建設システム工学科

建設システム工学科では、本校準学士課程の目的に基づき、自らが継続的に学習することで、以下の目標を達成し、卒業の認定に関する規程に定める基準を満たした学生に卒業を認定します。

（ｉ）数学と自然科学を修得し、専門分野に応用することができる。

（ii）専門分野の基礎を修得し、専門的な問題を解決するために活用できる。

（iii）専門的な実験を遂行・分析することができ、実習・演習により修得した実践技術をものづくりに活用できる。

（iv）修得した人文・社会科学の一般知識により広い視野を持ち、技術者として倫理的に行動し、異文化理解・交流を行うことができる。

（ｖ）地域、社会等の問題解決のために他者と協働し、修得した専門分野の知識・技術を融合して創造することができる。また、その成果を発表することができる。

なお、（ii）における専門分野は以下のとおりです。

● 都市環境コース
（ii-c1）構造分野
（ii-c2）水工分野
（ii-c3）地盤分野
（ii-c4）計画分野
（ii-c5）環境分野

● 建築コース
（ii-a1）建築構造分野
（ii-a2）建築環境分野
（ii-a3）建築計画分野
（ii-a4）設計･製図分野

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

準学士課程では、各学科のディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するために、次のような「教育課程の編成・実施方針」、および「成績評価方法と評価基準」に基づいて教育を実施します。

【教育課程の編成・実施方針】

人文科学や自然科学などを学ぶ学科共通の「一般科目」に対して、工学の専門分野を学ぶ学科ごとの「専門科目」をくさび型に配置し、以下のような科目群を設定して教育課程を編成し実施します。

「一般科目」

(1) 基礎的な数学と自然科学を修得し、専門分野に応用する力を育成するための科目群（基礎数学、物理、化学、ライフ＆アースサイエンスなど）

(2) 人文・社会科学の一般知識を修得して広い視野を持ち、技術者としての倫理を身につけ、異文化を理解し、交流する力を育成するための科目群（総合英語、総合国語、歴史総合、公共、哲学、法学など）

(3) 地域、社会等の問題解決のために他者と協働して取り組む力を育成するための科目群（保健体育など）

「専門科目」

■ 機械工学科

(1) 応用的な数学と自然科学の知識を修得し、専門分野に応用する力を育成するための科目群（応用物理、応用数学）

(2) 専門分野の基礎を修得し、専門的な問題の解決に活用できる能力を育成するための科目群
（2-m1）材料力学分野（材料力学、材料加工学など）
（2-m2）流体力学分野（水力学、流体工学など）
（2-m3）熱力学分野（工業熱力学、伝熱工学など）
（2-m4）機械力学分野（機械力学など）
（2-m5）設計分野（情報処理、機械設計法、材料学など）

(3) 専門的な実験を遂行・分析することができ、修得した実践技術をものづくりに活用できる能力を育成するための科目群（機械工学実験、工作実習、設計製図、ものつくり演習など）

(4) 地域、社会等の問題解決のために他者と協働して取り組み、修得した専門分野の知識・技術を融合して創造し、その成果を発表できる能力を育成するための科目群（創造設計製作、卒業研究など）

■ 電気情報工学科

(1) 応用的な数学と自然科学の知識を修得し、専門分野に応用する力を育成するための科目群（応用物理、応用数学）

(2) 専門分野の基礎を修得し、専門的な問題の解決に活用できる能力を育成するための科目群
（2-e1）電気分野（電気基礎、電気回路、交流回路、制御工学など）
（2-e2）電子分野（アナログ回路、電磁気学、電子工学など）
（2-e3）情報分野（情報基礎、C言語、情報理論、オペレーティングシステムなど）
（2-e4）通信分野（アナログ信号処理、ディジタル信号処理、ネットワーク論など）

(3) 専門的な実験を遂行・分析することができ、修得した実践技術をものづくりに活用できる能力を育成するための科目群（回路実習、プログラミング実習、電気情報工学実験など）

(4) 地域、社会等の問題解決のために他者と協働して取り組み、修得した専門分野の知識・技術を融合して創造し、その成果を発表できる能力を育成するための科目群（創造工学、工学基礎研究、卒業研究など）

■ 電子制御工学科

(1) 応用的な数学と自然科学の知識を修得し、専門分野に応用する力を育成するための科目群（応用物理、応用数学）
(2) 専門分野の基礎を修得し、専門的な問題の解決に活用できる能力を育成するための科目群
（2-s1）電気電子分野（電気基礎、電子工学など）
（2-s2）機械分野（水力学、熱力学、材料力学など）
（2-s3）計測制御分野（制御工学、ロボティクス、計測工学など）
（2-s4）情報分野（プログラミング、数値計算法など）
(3) 専門的な実験を遂行・分析することができ、修得した実践技術をものづくりに活用できる能力を育成するための科目群（メカトロニクス演習、電子制御実習、CAD演習、電子制御実験など）
(4) 地域、社会等の問題解決のために他者と協働して取り組み、修得した専門分野の知識・技術を融合して創造し、その成果を発表できる能力を育成するための科目群（創造設計プロジェクト、卒業研究など）

■ 建設システム工学科

(1) 応用的な数学と自然科学の知識を修得し、専門分野に応用する力を育成するための科目群（応用物理、応用数学）
(2) 専門分野の基礎を修得し、専門的な問題の解決に活用できる能力を育成するための科目群

〔都市環境コース〕

（2-c1）構造分野（構造力学、建設材料学、鋼構造学、耐震工学など）
（2-c2）水工分野（水理学、河川工学、海岸工学など）
（2-c3）地盤分野（地盤工学、土木施工、地盤防災工学など）
（2-c4）計画分野（測量学、土木計画、土木施工など）
（2-c5）環境分野（環境工学、環境衛生学など）

〔建築コース〕

（2-a1）建築構造分野（構造力学、建設材料学、鋼構造学、建築構造、耐震工学など）
（2-a2）建築環境分野（建築環境、建築設備など）
（2-a3）建築計画分野（建築計画、建築論、建築法規など）
（2-a4）設計・製図分野（建設製図、建築デザインなど）
(3) 専門的な実験を遂行・分析することができ、修得した実践技術をものづくりに活用できる能力を育成するための科目群（測量実習、建設システム工学実験、情報処理など）
(4) 地域、社会等の問題解決のために他者と協働して取り組み、修得した専門分野の知識・技術を融合して創造し、その成果を発表できる能力を育成するための科目群（建設製図制作、建設設計製図、卒業研究･卒業設計など）

【成績評価方法と評価基準】

評価方法と評価基準は、以下に示すとおりです。
(1) 講義科目においては、科目ごとに到達目標を設定し、平常の取り組み（演習、宿題、レポートなど）と定期試験の結果を総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価します。到達度と評価基準は以下の表のとおりです。
(2) 実技・実験・実習・演習などの実践科目においては、課題の取り組み状況、レポート、発表などを総合的に勘案し、設定された到達目標に対する到達度を評価します。
(3) 卒業研究（本科）及び特別研究（専攻科）においては、研究成果、研究発表、質疑応答、取り組み姿勢、論文などを総合的に勘案し、設定された到達目標に対する到達度を評価し、60%以上の到達度をもって合格とします。
(4) 卒業設計（建設システム工学科）においては、発表の内容、質疑応答、取り組み姿勢、論文などを総合的に勘案し、設定された到達目標に対する到達度を評価し、60%以上の到達度をもって合格とします。

到達度と評価基準

評価	到達目標に対する到達度（%）	内容	合否
A＋	９０～１００	期待した能力が優れて身についている。	合格
A	８０～８９	期待した能力が十分身についている。	
B	７０～７９	期待した能力が身についている。	
C	６０～６９	期待した能力が概ね身についている。	
F	６０%未満	期待した能力が身についていない。	不合格

アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

本校では、工学の基礎と教養を身につけ、活動力、創造力、国際感覚豊かな実践的開発型技術者の育成に努めています。そのため、次のような人の入学を期待しています。
(1)「ものつくり」を通して、自立した人間を目指す人
(2) 自ら学ぼうとする姿勢を持ち、本校入学までに教育機関で学習する内容を十分理解している人
(3) 社会のルールを守って、いろいろな人と協調していける人
また、各学科が求める適性は以下のとおりです。

■ 機械工学科

機械工学科では、理論と現象を正確に理解し、いろいろな事態に的確に判断でき、それを実行できる行動力を持った技術者の育成を目指しています。機械工学は、あらゆる「ものつくり」の基礎をなす学問であるからです。本学科では、次のような人の入学を期待しています。

○「ものつくり」が好きな人、関心がある人
○「自動車」、「ロボット」や動くものが好きな人、関心がある人
○ 将来、機械の開発、設計、製造、保守等の分野で世の中の役に立ちたい人

■ 電気情報工学科

電気情報工学科では、将来に渡って「発想の泉」となる工学基礎科目の上に立ち、電気・電子系及び情報系科目の幅広い分野を勉強します。本学科では、次のような人の入学を期待しています。

○ 電気・電子、情報・通信分野に関心がある人
○ ハードウェア、ソフトウェアなどの「ものつくり」ができるようになりたい人
○「自分の志」を抱いて、基礎科目を継続的に学習できる人

■ 電子制御工学科

電子制御工学科では、メカトロニクス技術者の育成を目指し、機械系、電子・電気系、制御・計測系及び情報系の幅広い分野を勉強します。本学科では、次のような人の入学を期待しています。

○ ロボットの設計製作や制御応用に関心のある人
○ 電子回路やマイコンを使ったものつくりをしたい人
○ コンピュータや「もののしくみ」に興味を持ち、好奇心旺盛な人

■ 建設システム工学科

建設システム工学科では、21世紀の住みよい社会を創ることを目的として、その計画、運営、維持を行うことのできる素養を身につけるための勉強をします。本学科では、次のような人の入学を期待しています。

○ 自然環境と調和した街づくりに熱意を持っている人
○ 災害に強く、安全な社会づくりに興味を持っている人
○ 建設技術に関する知識を修得し、地域社会の発展や国際貢献に関わりたい人

本校では、上記の人の入学が実現できるよう次の基本方針で入学者選抜を行います。

〈本科特別選抜〉

中学校を卒業見込みで、かつ学業・人物とも優秀であることにより校長から推薦を受けた入学意志が強固な者に対して、以下の結果を総合的に評価し、選抜します。

〔地域創成型〕
調査書、一般面接、地域面接
〔一般推薦型〕
調査書、適性検査、(数学、理科、英語)、一般面接

〈本科学力検査選抜〉

中学校等を卒業した者（卒業見込みの者を含む）に対して、調査書、学力検査、(数学、理科、英語、国語、社会）の結果を総合的に評価し、選抜します。

〈本科帰国生徒特別選抜〉

中学校等に相当する課程に外国で２年以上在籍し、かつ一定の条件を満たす者に対して、調査書、学力検査（数学、理科、英語)、作文、面接の結果を総合的に評価し、選抜します。

令和４年度以降入学者（専攻科課程）
ディプロマ・ポリシー（修了認定の方針）

本校専攻科の目的・専攻科修了者像に基づき、自らが継続的に学習することで、以下の目標を達成し、修了の認定に関する規程に定める基準を満たした学生に修了を認定します。

■ 電気電子システム工学コース

（ｉ）高度な数学の知識と幅広い工学の基礎知識を修得し、専門分野に応用することができる。
（ii）電気電子工学分野の深い学識を修得し、専門的な問題を解決するために活用できる。
（iii）電気電子工学分野の応用的な実験を遂行・分析することができ、実習・演習により修得した実践技術をエンジニアリングの実務に活用できる。
（iv）修得した人文・社会科学の知識により広い視野と国際感覚を持ち、技術者として倫理的に行動することができる。
（ｖ）技術者としての実践力、協働力を身につけ、地域、社会等の課題の発見と解決に対して、修得した 知識・技術を融合して創造的に取り組むことができる。また、その成果を発表することができる。

■ 機械制御システム工学コース

（ｉ）高度な数学の知識と幅広い工学の基礎知識を修得し、専門分野に応用することができる。
（ii）機械工学分野の深い学識を修得し、専門的な問題を解決するために活用できる。
（iii）機械工学分野の応用的な実験を遂行・分析することができ、実習・演習により修得した実践技術をエンジニアリングの実務に活用できる。
（iv）修得した人文・社会科学の知識により広い視野と国際感覚を持ち、技術者として倫理的に行動することができる。
（ｖ）技術者としての実践力、協働力を身につけ、地域、社会等の課題の発見と解決に対して、修得した知識・技術を融合して創造的に取り組むことができる。また、その成果を発表することができる。

■ 建設工学コース

（ｉ）高度な数学の知識と幅広い工学の基礎知識を修得し、専門分野に応用することができる。
（ii）土木工学および建築学分野の深い学識を修得し、専門的な問題を解決するために活用できる。
（iii）土木工学および建築学分野の応用的な実験を遂行・分析することができ、実習・演習により修得した実践技術をエンジニアリングの実務に活用できる。
（iv）修得した人文・社会科学の知識により広い視野と国際感覚を持ち、技術者として倫理的に行動することができる。
（ｖ）技術者としての実践力、協働力を身につけ、地域、社会等の課題の発見と解決に対して、修得した知識・技術を融合して創造的に取り組むことができる。また、その成果を発表することができる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

後述のディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するために、一般科目群および融合複合領域に対応したコース共通の科目群と、高度な専門分野に対応したコース別の科目群を開設します。具体的には、ディプロマ・ポリシーと対応させて以下のように教育課程を編成します。

（1）一般科目

1. 技術者として広い視野を身につけるための科目を開設します。
2. 技術者としての国際感覚を身につけるための科目を開設します。

（2）専門共通科目

1. 高度な数学の知識を修得する科目を開設します。
2. 異なる専門分野を含めた幅広い工学の基礎知識を修得する科目を開設します。
3. 技術者としての倫理を学ぶ科目を開設します。
4. 地域、社会等の課題の発見と解決に他者と協働して取り組む力を身につけるための科目を開設します。

（3）専門コース科目

■ 電気電子システム工学コース

1. 電気電子工学分野の深い学識を修得する科目を開設します。
2. 電気電子工学分野の応用的な実験を学ぶ科目を開設します。
3. 修得した実践技術をエンジニアリングの実践に活用することを学ぶ科目を開設します。
4. 技術者として地域、社会等の課題の発見と解決に取り組む実践力、修得した知識・技術を融合して創造する能力、さらにそれらの成果を発表する能力を身につけるための科目を開設します。

■ 機械制御システム工学コース

1. 機械工学分野の深い学識を修得する科目を開設します。
2. 機械工学分野の応用的な実験を学ぶ科目を開設します。
3. 修得した実践技術をエンジニアリングの実践に活用することを学ぶ科目を開設します。
4. 技術者として地域、社会等の課題の発見と解決に取り組む実践力、修得した知識・技術を融合して創造する能力、さらにそれらの成果を発表する能力を身につけるための科目を開設します。

■ 建設工学コース

1. 土木工学および建築学分野の深い学識を修得する科目を開設します。
2. 土木工学および建築学分野の応用的な実験を学ぶ科目を開設します。
3. 修得した実践技術をエンジニアリングの実践に活用することを学ぶ科目を開設します。
4. 技術者として地域、社会等の課題の発見と解決に取り組む実践力、修得した知識・技術を融合して 創造する能力、さらにそれらの成果を発表する能力を身につけるための科目を開設します。

評価方法と評価基準は、以下に示すとおりです。

(1) 講義科目においては、科目ごとに到達目標を設定し、平常の取り組み（演習、宿題、レポートなど）と定期試験の結果を総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価します。到達度と評価基準は以下の表のとおりです。

(2) 実技・実験・実習・演習などの実践科目においては、課題の取り組み状況、レポート、発表などを総合的に勘案し、設定された到達目標に対する到達度を評価します。

(3) 特別研究基礎および特別研究においては、研究成果、研究発表、質疑応答、取り組み姿勢、論文（特別研究基礎においては報告書）などを総合的に勘案し、設定された到達目標に対する到達度を評価し、60％以上の到達度をもって合格とします。

到達度と評価基準

評価	到達目標に対する到達度（％）	内容	合否
A＋	９０～１００	期待した能力が優れて身についている。	合格
A	８０～８９	期待した能力が十分身についている。	
B	７０～７９	期待した能力が身についている。	
C	６０～６９	期待した能力が概ね身についている。	
F	６０％未満	期待した能力が身についていない。	不合格

アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

専攻科では、優れた資質の技術者を養成するため、次のような入学者を期待しています。

(1) 技術社会の中核を担う者として、社会で広く活躍し貢献していく意欲のある人

(2) 専攻科生としての自覚と確かな目標をもち、自主的に学習・研究する意欲が高く、十分な基礎学力を身につけている人

(3) コミュニケーションの能力と物事を筋道立てて考察する力があり、自己の考えを適切に表現することができる人

(4) しっかりとした社会性と倫理観をもち、そして自ら考え、適切に行動できる人

また、各コースの求める適性を有する人は以下のとおりです。

■ 電気電子システム工学コース

1. 電気電子工学分野に係わる基礎知識を有する人
2. 電気電子工学の知識を高め、その分野で活躍したいという意欲のある人

■ 機械制御システム工学コース

1. 機械工学分野に係わる基礎知識を有する人
2. 機械工学の知識を高め、その分野で活躍したいという意欲のある人

■ 建設工学コース

1. 土木工学または建築学分野に係わる基礎知識を有する人
2. 土木工学および建築学の知識を高め、その分野で活躍したいという意欲のある人

専攻科では、上記の人の入学が実現できるよう次の基本方針で入学者選抜を行います。

〈推薦特別選抜〉

高等専門学校を卒業見込みの者で、学業・人物とも優秀であることにより出身の高等専門学校長の推薦を受けた入学意志が強固な者に対して、調査書および面接の結果を総合的に評価し、選抜します。

〈一般学力検査選抜（前期日程Ａ方式）〉

高等専門学校を卒業した者（卒業見込みの者を含む）等で、入学意志が強固な者に対して、調査書、面接、学力検査（数学、志願するコースの専門科目）、および英語能力検査の結果を総合的に評価し、選抜します。

〈一般学力検査選抜（前期日程Ｂ方式、後期日程）〉

高等専門学校を卒業した者（卒業見込みの者を含む）等に対して、調査書、面接、学力検査（数学、志願するコースの専門科目）、および英語能力検査の結果を総合的に評価し、選抜します。

〈社会人特別選抜〉

高等専門学校を卒業し、企業等での勤務経験のある者に対して、調査書、面接（口頭試問を含む）、英語能力検査、および小論文の結果を総合的に評価し、選抜します。

令和3年度以前入学者（準学士課程）・（専攻科課程）

ディプロマ・ポリシー

教育理念、専攻科修了者像、各学科の人材養成の目的などに基づいて、本科卒業ならびに専攻科修了を認定するための要件として、また、卒業時ならびに修了時に学生が修得すべき能力を表すものとして、次のような学習・教育到達目標を定めています。

学習・教育到達目標

（本科課程）

(A) 自然科学と工学の基礎を身につける。
(B) 専門分野※の基礎知識を修得し、技術の実践に応用できる。
(C) 修得した知識を統合し、製品やシステムを考案できる。
(D) 実験・実習・演習により現象の理解を深め、実践力を身につける。
(E) 技術者に必要な人間性、国際性、協調性及び英語による基礎的なコミュニケーション能力を身につける。
(F) 技術が自然や社会に与える影響を理解し、技術者としての倫理観を身につける。
(G) 課題の提案・報告などを適切にまとめ、発表できる。
(H) コンピュータを技術の実践に活用できる。
(I) 責任を自覚し、互いに協力し合い、チームの目的達成に貢献できる。

※ 専門分野は学科ごとに定められており、各学科の人材養成の目的に示されています。

（専攻科課程）

(A) 自然科学と工学の基礎を幅広く修得し、それを応用することができる。
A-1 数学・自然科学に関する知識と応用力を修得する。
A-2 工学の基礎に関する知識と応用力を修得する。
(B) 専門分野の基礎知識を修得し、それを実際の技術の問題に応用することができる。
B-1 専門分野の基礎的な知識・技術を修得する。
B-2 実務上の問題点と課題を理解し、適切に対応する能力を修得する。
(C) 修得した知識を統合して、社会に貢献できる製品やシステムを設計し開発する創造的能力と意欲を有する。
C-1 創造性を発揮して課題解決の方法を探求し、製品やシステムを設計し組み立てて解決する能力を修得する。
C-2 多角的な視野に立ち課題を分析し、種々の知識や技術を統合して社会の要求に応えるデザイン能力を修得する。
(D) 実験・実習・演習を通じて現象を解析し考察することができる。
D-1 実験を計画し遂行する能力と、得られたデータを適切に解析し考察する能力を修得する。
D-2 与えられた制約の下で実験・実習・演習を計画的に進め、結果をまとめる能力を修得する。
(E) 豊かな人間性・国際性・協調性および英語によるコミュニケーション能力を身につける。
E-1 歴史・文化・習慣・価値観の多様性を理解し、幸福・福祉や豊かさなどの概念が多岐にわたることを認識する能力を修得する。
E-2 自らを育んだ文化や価値観を自覚し、異なる文化や価値観との接触を通じて、より豊かな生き方を追究できる。
E-3 国際的に通用するコミュニケーションの基礎能力を修得する。
(F) 技術が持つ地球的・社会的影響の重要性と技術者の倫理的責任を理解し、説明することができる。
F-1 自らの価値観・利益にとらわれず、他者の立場で、技術が持つ社会的な影響を考えることができる。
F-2 技術がもたらす恩恵だけではなく、自然と社会の全体を視野に入れた生命・環境・情報に関わる課題を理解し、説明することができる。
(G) 課題の提案・報告などを効果的に記述し、説明することができる。
G-1 得られた結果や考察をわかりやすく説明する能力を修得する。
G-2 日本語による論理的な記述力・発表力・討議力などのコミュニケーション能力を修得する。
(H) コンピュータをはじめ、実践に必要なスキルと最新の工学ツールとを活用することができる。
H-1 コンピュータを目的に応じて活用する能力を修得する。
H-2 技術の進歩に対応して、実践に必要なスキルと最新の工学ツールを活用する能力を修得する。
(I) 自分の責任を自覚し、互いに理解し協力し合い、チームの目的達成のために能力を発揮できる。

カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するために、以下の科目群を開設します。

(1) 自然科学を修得するために、数学、物理、化学、ライフサイエンス・アースサイエンスの科目を開設します。また、技術の融合複合化に対応するため、専門共通として基礎工学の科目を開設します。
(2) 専門分野の技術の実践に必要な専門科目群を開設します。※※
(3) 知識を統合して創造能力やデザイン能力を育むため、能動的に取り組む問題解決型演習、卒業研究、卒業設計を実施します。※※
(4) 技術者として主体的・能動的な実践力を養うため、実験・実習・演習科目を設置します。※※
(5) 豊かな人間性を養い地域を志向するため、体育、国語、英語、社会、地域に関する科目を開設します。
(6) 社会に役立つ技術者となるために、社会及び工学の科目群を通して倫理観を育みます。
(7) 実技・実験・実習・演習科目、問題解決型演習科目、卒業研究、卒業設計を通して、チームワークができ、課題の提案や報告などを適切にまとめ、発表できる能力を育みます。※※
(8) コンピュータを技術の実践に活用するため、情報処理、計算機工学、プログラミング等の科目を開設します。※※
(9) 専攻科においては、専攻科のディプロマ・ポリシーを達成するために、より高度な一般科目群を開設します。また、専門的能力を向上させるため、より高度な専門コース科目群を開設します。さらに、融合複合技術に対応して、より高度な専門共通科目群を開設します。※※

※※ 上記(2)(3)(4)(7)(8)については各学科におけるカリキュラム・ポリシーを、上記(9)については専攻科のカリキュラム・ポリシーを参照してください。

評価方法と評価基準は、以下に示すとおりです。

(1) 講義科目においては、科目ごとに到達目標を設定し、平常の取り組み（演習、宿題、レポートなど）と定期試験の結果を総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価します。到達度と評価基準は以下の表のとおりです。

(2) 実技・実験・実習・演習などの実践科目においては、課題の取り組み状況、レポート、発表などを総合的に勘案し、設定された到達目標に対する到達度を評価します。

(3) 卒業研究（本科）及び特別研究（専攻科）においては、研究成果、研究発表、質疑応答、取り組み姿勢、論文などを総合的に勘案し、設定された到達目標に対する到達度を評価し、60%以上の到達度をもって合格とします。

(4) 卒業設計（建設システム工学科）においては、発表の内容、質疑応答、取り組み姿勢、論文などを総合的に勘案し、設定された到達目標に対する到達度を評価し、60%以上の到達度をもって合格とします。

到達度と評価基準

評価	到達目標に対する到達度（%）	内容	合否
A＋	９０～１００	期待した能力が優れて身についている。	合格
A	８０～８９	期待した能力が十分身についている。	
B	７０～７９	期待した能力が身についている。	
C	６０～６９	期待した能力が概ね身についている。	
F	６０%未満	期待した能力が身についていない。	不合格

機械工学科におけるカリキュラム・ポリシー

1) 機械工学分野の基礎工学である材料、流体、熱、振動などの力学について、これらの知識を体系的に修得させる科目を開設します。
2) 機械工学分野の統合化の基盤となる設計、加工、制御、計測、電気工学など、生産技術に関わる知識を修得させる科目を開設します。
3) 機械技術者として必要な技術的スキル、主体的・能動的な実践力およびチームとしての協調性を育むため、実験・実習・演習科目を効果的に配置します。またそれらの科目、卒業研究などを通じて、問題発見・分析・解決能力また成果の発表・報告能力などを総合的に養います。
4) 機械工学の専門知識を統合して、技術に関わるデザイン能力や創造能力を育むため、創造演習、創造設計製作および卒業研究などの科目を開設します。
5) コンピュータを技術の実践に活用する能力を養うため、情報リテラシー、プログラミングの基礎、数値計算、メカトロニクスなどについて、これらを学習する科目を開設します。

電気情報工学科におけるカリキュラム・ポリシー

1) 高度情報化社会の将来を担う実践的技術者を育成するため、電気系科目群、電子系科目群、情報系科目群、通信系科目群を開設します。
2) 講義で学んだことを体得するために、電気・電子・情報・通信の４分野を複合的に組み合わせた実験・実習科目群を開設します。
3) ４分野の専門知識を連携させる能力と豊かな創造力・発想力を養うため、問題解決型授業科目群を開設し、工学基礎研究・卒業研究を行います。
4) 上記の実験・実習科目群、問題解決型授業科目群、工学基礎研究・卒業研究では、チームで活動するために必要なコミュニケーション能力や、課題の提案・報告を行うプレゼンテーション能力も併せて育成します。
5) コンピュータを技術開発に活用する能力を育成するため、情報系科目群および実験・実習科目群を開設します。

電子制御工学科におけるカリキュラム・ポリシー

1) 機械と電気・電子を融合したメカトロニクスシステムを開発し、システムに機能を付加する能力を育成するために、機械系科目群、電気・電子系科目群、制御・計測系科目群、情報系科目群を開設します。
2) 専門知識を統合してメカトロニクスシステムを創造し、様々な機能創成に必要なデザイン能力と創造能力を育成するために、創造設計科目および卒業研究を実施します。
3) メカトロニクス技術者に必要な主体的・能動的実践力を育成するために、実験・実習・演習科目群を開設します。
4) 上記の創造設計科目、実験・実習・演習科目群、卒業研究では、チームで活動するために必要な能力や、課題の提案・報告を行う能力も併せて育成します。
5) コンピュータを技術の実践に活用する能力を育成するため、プログラミング、CADによる演習科目群を開設します。

建設システム工学科におけるカリキュラム・ポリシー

1) 災害に強い、自然と調和した、快適な地域社会を創り、運営できる土木技術者と建築技術者を育成するため,土木工学分野と建築学分野の専門科目群を開設します。
2) 創造能力やデザイン能力を育成するため、設計製図や工学実験・実習、卒業研究等の科目群を開設します。
3) 主体的・能動的な実践力を育成するため、設計製図や工学実験・実習、情報処理、卒業研究等の科目群を開設します。
4) チームで活動する能力や課題の提案・報告を行う能力を育成するため、設計製図や工学実験・実習、卒業研究等の科目群を開設します。
5) コンピュータ技術を実践に活用する能力を育成するため、設計製図や情報処理等の科目群を開設します。

専攻科のカリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するために、一般科目群および融合複合領域に対応したコース共通の科目群と、高度な専門分野に対応したコース別の科目群を開設しています。

【コース共通】

1) 人文社会および自然科学に関するより高度な一般科目群を開設します。
2) 融合複合技術に対応できる能力を育成するために、数学および複合分野・融合分野に係る高度な専門共通科目を開設します。

【電気電子システム工学コース】

1) 電気電子物性および電力・制御・情報通信システム等の分野での研究開発能力を育成するために、発展的な内容を扱う電気・電子系科目、情報・通信系科目、制御系科目を開設します。
2) 高度な専門知識を統合して電気電子系分野に係る問題解決や技術開発能力を育成し、課題の提案や報告を的確にまとめ発表する能力も併せて育成するために、特別研究基礎、特別研究を実施します。
3) 電気電子系の研究開発型技術者に必要なデザイン能力を養うとともに、主体的・能動的実践力を育成し、チームで取り組むために必要な能力も併せて育成するために、実験・実習・演習系科目を開設します。

【機械制御システム工学コース】

1) 機械システム、制御システム等の分野での研究開発能力を育成するために、発展的な内容を扱う材料・流体・熱系科目、制御・メカトロニクス・生産系科目および電気電子系科目を開設します。
2) 高度な専門知識を統合して機械制御系分野に係る問題解決や技術開発能力を育成し、課題の提案や報告を的確にまとめ発表する能力も併せて育成するために、特別研究基礎、特別研究を実施します。
3) 機械制御系の研究開発型技術者に必要なデザイン能力を養うとともに、主体的・能動的実践力を育成し、チームで取り組むために必要な能力も併せて育成するために、実験・実習・演習系科目を開設します。

【建設工学コース】

1) 環境やエネルギーに配慮した自然災害に強い安全な社会基盤および建築物の設計・施工・維持管理等の分野での研究開発能力を育成するために、発展的な内容を扱う構造、水工、土質等の土木系科目および建築計画、建築環境、建築構造等の建築系科目ならびにこれらの共通系科目を開設します。
2) 高度な専門知識を統合して土木・建築系分野に係る問題解決や技術開発能力を育成し、課題の提案や報告を的確にまとめ発表する能力も併せて育成するために、特別研究基礎、特別研究を実施します。
3) 土木・建築系の研究開発型技術者に必要なデザイン能力を養うとともに、主体的・能動的実践力を育成し、チームで取り組むために必要な能力も併せて育成するために、実験・実習・演習系科目を開設します。

本科のアドミッション・ポリシー

本校では、工学の基礎と教養を身につけ、活動力、創造力、国際感覚豊かな実践的開発型技術者の育成に努めています。そのため、次のような人の入学を期待しています。

(1)「ものつくり」を通して、自立した人間を目指す人
(2) 自ら学ぼうとする姿勢を持ち、本校入学までに教育機関で学習する内容を十分理解している人
(3) 社会のルールを守って、いろいろな人と協調していける人

また、各学科が求める適性は以下のとおりです。

■ 機械工学科

機械工学科では、理論と現象を正確に理解し、いろいろな事態に的確に判断でき、それを実行できる行動力を持った技術者の育成を目指しています。機械工学は、あらゆる「ものつくり」の基礎をなす学問であるからです。本学科では、次のような人の入学を期待しています。

○「ものつくり」が好きな人、関心がある人
○「自動車」、「ロボット」や動くものが好きな人、関心がある人
○ 身体が不自由な人のための福祉機械に興味がある人

■ 電気情報工学科

電気情報工学科では、将来に渡って「発想の泉」となる工学基礎科目の上に立ち、電気・電子系及び情報系科目の幅広い分野を勉強します。本学科では、次のような人の入学を期待しています。

○ 電気・電子、情報・通信分野に関心がある人
○ ハードウェア、ソフトウェアなどの「ものつくり」ができるようになりたい人
○「自分の志」を抱いて、基礎科目を継続的に学習できる人

■ 電子制御工学科

電子制御工学科では、メカトロニクス技術者の育成を目指し、機械系、電子・電気系、制御・計測系及び情報系の幅広い分野を勉強します。本学科では、次のような人の入学を期待しています。

○ ロボットの設計製作や制御応用に関心のある人
○ 電子回路やマイコンを使ったものつくりをしたい人
○ コンピュータや「もののしくみ」に興味を持ち、好奇心旺盛な人

■ 建設システム工学科

建設システム工学科では、21世紀の住みよい社会を創ることを目的として、その計画、運営、維持を行うことのできる素養を身につけるための勉強をします。本学科では、次のような人の入学を期待しています。

○ 自然環境と調和した街づくりに熱意を持っている人
○ 災害に強く、安全な社会づくりに興味を持っている人
○ 建設技術に関する知識を修得し、地域社会の発展や国際貢献に関わりたい人

本校では、上記の人の入学が実現できるよう次の基本方針で入学者選抜を行います。

〈本科特別選抜〉

中学校等を卒業見込みで、かつ学業・人物とも優秀であることにより校長から推薦を受けた入学意志が強固な者に対して、調査書、適性検査（数学、理科、英語）、面接の結果を総合的に評価し、選抜します。

〈本科学力検査選抜〉

中学校等を卒業した者（卒業見込みの者を含む）に対して、調査書、学力検査（数学、理科、英語、国語、社会）の結果を総合的に評価し、選抜します。

〈本科帰国生徒選抜〉

中学校等に相当する過程に外国で２年以上在籍し、かつ一定の条件を満たす者に対して、調査書、学力検査（数学、理科、英語）、作文、面接の結果を総合的に評価し、選抜します。

〈本科編入学選抜〉

高等学校等を卒業した者（卒業見込みの者を含む）に対して、調査書、学力検査（数学、理科、英語、専門科目）、面接の結果を総合的に評価し、選抜します。

専攻科のアドミッション・ポリシー

専攻科では、優れた資質の技術者を養成するため、次のような入学者を期待しています。

(1) 技術社会の中核を担う者として、社会で広く活躍し貢献していく意欲のある人
(2) 専攻科生としての自覚と確かな目標をもち、自主的に学習・研究する意欲が高く、十分な基礎学力を身につけている人
(3) コミュニケーションの能力と物事を筋道立てて考察する力があり、自己の考えを適切に表現することができる人
(4) しっかりとした社会性と倫理観をもち、そして自ら考え、適切に行動できる人

上記の人の入学が実現できるように、入学者選抜の基本方針を以下のように定めています。

〈専攻科入学者選抜の基本方針〉

上記(1) ～ (4)に適合しているかどうかを、面接、学力検査及び調査書により、確認し、これらの結果を総合的に勘案して入学者を選抜します。

目次

	見出し	ページ
1	**本校の教育**	1
2	**沿革概要**	1
3	**歴代校長・名誉教授**	2
4	**本科案内**	3
	一般科目	3
	人文科学部門	3
	自然科学部門	4
	機械工学科	5
	電気情報工学科	6
	電子制御工学科	7
	建設システム工学科	8
5	**専攻科案内**	9
	総合システム工学専攻	9
6	**教育課程**	10
	本科教育課程	10
	専攻科教育課程	13
7	**施設案内**	14
	図書館	14
	情報科学センター	14
	教育研究支援センター	15
	国際交流センター	15
	地域共同テクノセンター	16
	社会基盤メンテナンス教育センター	16
8	**学生の概要**	17
	定員及び現員	17
	出身国別外国人留学生	17
	出身府県別学生数	17
	クラブ・同好会	18
	学費・寮費	18
	奨学制度	18
9	**進路状況**	19
	卒業生進路概要	19
	就職と進学の割合	19
	求人会社数の推移	19
	就職決定先の業種別状況	20
	進学状況	20
10	**組織概要**	21
11	**教員の研究活動等**	22
	外部資金受入状況	22
	科学研究費助成事業	22
12	**公開講座**	22
	公開講座等実績	22
13	**収入支出額**	23
14	**土地・建物の概要**	23
	学校配置図	24
	学校位置図	24

校章

金色の円弧は日本海に面する良港を表し、港湾工業都市として海と深く関わり合いながら発展する舞鶴を象徴している。円は円満の相で完全さを想わせ、港口の開きは積極性と向上発展を示している。
（京都工芸繊維大学　福永俊吉名誉教授考案）

ロゴマーク

中央のアーチは MAIZURU（舞鶴）の「M」を、その下は舞鶴湾を中心とした日本海を表しています。アーチの中心が舞鶴高専でありアーチは世界の架け橋を示しています。これは本校の教育理念である国際性・産業の繋がりを表しています。
（舞鶴工業高等専門学校　卒業生　竹野峻輔考案）

学校旗

本校は、科学技術立国「日本」を担う高度技術者を育成する国立の高等教育機関です。本科は、早期からの５年一貫の「ものつくり教育」により、実践力と創造力を身につけた人材を、専攻科ではより専門性を深化させた人材を輩出しています。

校長
林　康裕

「将来性豊かで多様な進路」

本校は、1965年に発足しました。本校は京都府にある唯一の国立高専として、多くの優秀な人材を育成してきました。それ以来、「ものつくり」を重視した教育により多くの優秀なエンジニアを輩出し、京阪神地区をはじめ全国の産業界などで活躍されています。本校卒業生は、創造力と協調性を併せ持つ高度技術者として産業界でも高く評価され、超氷河期といわれた就職難のときや、近年の新型コロナウイルス感染症の蔓延という社会状況においても高い求人倍率となっています。また、卒業生の半数程度が希望する国立大学や高専の専攻科に進学しています。

本校の確かな「ものつくり教育」は産業界で広く認められ、卒業生は、科学技術立国としてＳＯＣＩＥＴＹ5.0を担う高度技術者として期待されています。また地域の課題を解決するソーシャルドクター、地域振興を進めるソーシャルイノベーターとしての活躍も望まれています。

「広い地域からの入学生」

本校は舞鶴市にありますが、京都府、滋賀県、大阪府、兵庫県、奈良県、福井県を始めとして全国から多くの学生が入学しています。そのために、学習環境と生活環境が整った全国の国立高専で最大規模の学寮が設置され、約600人の寮生を収容しています。女子学生数の増加に対応し、女子寮の整備も進んでいます。

「信頼の教育と進路指導」

本校における教育の重要な特徴は、教える教員と学ぶ学生との信頼関係に基づいた教育を行うことを目指していることです。本科は４学科で構成され、各学科の定員は40人となっています。担任と各科目担当教員はクラスの学生と親身に対話することを心がけています。また修学支援室を設けており、様々な相談にチームを組んで対応しています。このことは中学校・高校では当たり前のことですが、大学などではあまりないことです。これは全人教育の観点から重要なことと考えています。

国立高専は、日本特有の教育システムで、KOSENとして世界から注目を集めています。本校でも、国際性豊かな技術者を育成することを目標に、海外の多くの大学と連携して、現地学生との交流やインターンシップを実施しています。

また、本校では学生のキャリア教育に力を入れています。インターンシップや企業説明会などを開催するなど、学生の進路指導に定評があります。就職希望者には学校として組織的に対応すると共に、専門性を深化させたい進学希望者のほとんどが、国立大学を中心とする、本校専攻科や志望大学に入学しています。

「地域との連携強化」

本校は近畿地域北部のものつくりが盛んな地域に位置しており、技術・開発力を活かした産業が展開しています。本校は舞鶴市などの自治体と共に、北近畿や京都府の企業の協力会「舞鶴高専地域テクノアカデミア」などを通じて、地域との連携を深めています。地域や社会の実問題を題材とした教育・研究を行うことで、学生の問題発見能力と問題解決能力を養っています。

舞鶴工業高等専門学校校歌

森田勝治 作詞
安部幸明 作曲

一、鬼斧千年の荒磯に
咽ぶ親潮末遠く
七つの海に
連りて
世紀の文化
行き通ふ
西日本の北門に
学と人とを
織りなして
絢爛の花
培える
おゝうるはしの
舞鶴高専

二、ときはの姿霧こめて
めぐりの山は語らねど
妙なる黙示
しげくして
悠けく潔く
静かなる
不断の努力撓みなく
知識と技術を
糾ひて
科学の粋を
究め行く
おゝかぐはしの
舞鶴高専

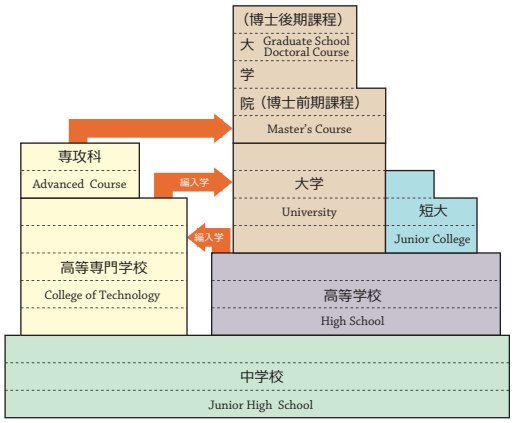
三、世代の光先駆して
こゝ舞鶴の一角に
濁りにそまぬ
清純の
意気高らかに
溌剌と
朝に夕いそしみて
不抜の力
錬へたる
誉は遠く
輝きて
おゝなぐはしの
舞鶴高専

1 本校の教育

本校は、昭和40年（1965年）に設置され、これまでに7,494名の卒業生を世に送り出してきました。本科は、現在、4学科（機械工学科、電気情報工学科、電子制御工学科、建設システム工学科）で構成されています。低学年（1・2年）は4学科混合のクラス編成であり、一般教養と専門基礎の教育を行っています。高学年（3～5年）では学科ごとのクラス編成となり、実践的な専門教育を行っています。専門教育では、従来型の講義や実験・実習・演習だけでなく、様々な問題解決型の授業も行っています。本科では、このような5年間一貫教育により、専門的な問題を解決することができる実践的かつ創造的な技術者を育成することを目指しています。

平成12年（2000年）には、さらに専門性を高めるために、2年間の専攻科が設置され、現在、総合システム工学専攻の3コース（電気電子システム工学コース、機械制御システム工学コース、建設工学コース）で構成されています。専攻科では、融合複合的な教育を行うことにより、国際社会で力を発揮できる中核的技術者を育成することを目指しています。

教育制度



2 沿革概要

昭和 39 年 12 月 28 日	京都府舞鶴市に舞鶴工業高等専門学校を設置することが決定
昭和 40 年　1 月 18 日	京都大学本部に舞鶴工業高等専門学校設立準備会を設置
昭和 40 年　4 月　1 日	国立学校措置法の一部を改正する法律(昭和40年法律第15号)が公布され、機械工学科2学級及び電気工学科1学級を置く舞鶴工業高等専門学校を設置
昭和 40 年　4 月 26 日	開校式並びに第1回入学式を舞鶴重工体育館において挙行し、舞鶴市平の旧舞鶴引揚援護局の施設を仮校舎及び仮寄宿舎として開校
昭和 41 年　3 月 28 日	校舎、寄宿舎(第1期)工事竣工
昭和 41 年　3 月 29 日	仮校舎及び仮寄宿舎から本校舎及び本寄宿舎に移転
昭和 44 年　4 月　1 日	前期及び後期の2学期制、また低学年全寮制とし、寄宿舎を学寮と呼称
昭和 45 年　3 月 18 日	第1回卒業式を挙行
昭和 45 年　4 月　1 日	土木工学科1学級を増設
昭和 50 年 10 月 18 日	創立10周年記念式典を挙行
昭和 53 年　5 月 10 日	陸上競技場を(財)日本陸上競技連盟から第3種陸上競技場として公認
昭和 55 年　3 月 31 日	第2体育館新営工事、第2グラウンド整備工事（12,269㎡）及び武道場増築工事竣工
昭和 55 年　4 月 26 日	創立15周年記念式典を挙行
昭和 56 年　9 月 30 日	普通教室新営工事竣工
昭和 60 年 10 月 13 日	創立20周年記念式典を挙行
平成　2 年　4 月　1 日	機械工学科2学級を機械工学科1学級、電子制御工学科1学級に改組
平成　5 年　3 月 31 日	電子制御工学科棟新営工事竣工
平成　6 年　4 月　1 日	土木工学科を建設システム工学科に改組
平成 11 年　3 月 29 日	学寮（女子寮）改修工事竣工
平成 11 年　5 月 31 日	太陽光発電設備完成
平成 12 年　4 月　1 日	専攻科（電気・制御システム工学専攻、建設・生産システム工学専攻）を設置
平成 12 年　4 月　7 日	第1回専攻科入学式を挙行
平成 13 年　1 月 22 日	低学年棟・地域共同テクノセンター新営工事竣工
平成 14 年　3 月 26 日	専攻科棟新営工事竣工
平成 14 年　4 月　1 日	第1学年について混合学級を編成
平成 15 年　2 月 24 日	校舎改修工事竣工
平成 16 年　4 月　1 日	独立行政法人国立高等専門学校機構が設置する高等専門学校となる 電気工学科を電気情報工学科に名称変更
平成 16 年 12 月 22 日	MIRECと学術交流協定を締結
平成 17 年　2 月　9 日	第1回舞鶴工業高等専門学校参与会を開催
平成 17 年　4 月 29 日	創立40周年記念式典を挙行
平成 17 年　5 月 12 日	教育プログラム「生産・情報基礎工学」がJABEEから認定
平成 17 年　9 月 22 日	全校TOEIC定期試験の導入
平成 17 年 12 月　8 日	学寮無線LANの新設
平成 17 年 12 月 22 日	タイ　キングモンクット工科大学ラカバンとの国際交流協定を締結
平成 18 年　4 月　1 日	建設システム工学科に都市環境系科目履修コースと建築系科目履修コースを導入
平成 18 年　4 月 28 日	韓国　高麗大学と国際交流協定を締結
平成 18 年　9 月　8 日	中国　大連職業技術学院と交流協定を締結
平成 18 年　9 月 26 日	台湾　国立高雄第一科技大学と交流協定を締結
平成 19 年　3 月 28 日	京都大学工学部・大学院工学研究科と教育研究交流協定を締結
平成 19 年　3 月 30 日	京都工芸繊維大学と包括協定を締結
平成 19 年　5 月 10 日	大阪大学工学部・大学院工学研究科と教育研究交流協定を締結
平成 20 年　3 月　3 日	ベトナム交通運輸大学と学術交流協定を締結
平成 20 年　3 月 11 日	京都北都信用金庫と産学連携に関する協定を締結
平成 20 年　9 月 15 日	ベトナムハノイ建設大学と学術交流協定を締結
平成 20 年 12 月　1 日	JSTイノベーションプラザ京都と産学連携に関する覚書を締結
平成 21 年 11 月　5 日	教育プログラム「生産・情報基礎工学」JABEEの継続審査を受審した
平成 23 年　9 月 13 日	近畿4高専と成都2校との間に学術協定を締結

平成 24 年　1 月 30 日	北陸先端科学技術大学院大学と推薦入学に関する協定を締結
平成 25 年　5 月 16 日	丹後機械工業協同組合と産学連携に関する協定を締結
平成 25 年 10 月　1 日	舞鶴市と包括的連携協力に関する協定を締結
平成 26 年　1 月 23 日	社会基盤メンテナンス教育センター設置
平成 26 年　3 月 28 日	学寮(7号館)新営工事竣工
平成 27 年　4 月　1 日	専攻科を総合システム工学専攻に改組
平成 27 年　4 月 25 日	創立50周年記念式典を挙行
平成 27 年　5 月 15 日	兵庫県立大学大学院シミュレーション学研究科と推薦入学に関する協定を締結
平成 28 年　2 月 29 日	学寮(2･3号館)改修工事竣工
平成 28 年　3 月 31 日	京都府、京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都学園大学、京都文教大学、京都大学と地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)に係る連携･協力に関する協定を締結
平成 28 年　5 月 20 日	兵庫県立大学大学院応用情報科学研究科と推薦入学に関する協定を締結
平成 28 年 12 月　1 日	兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科と推薦入学に関する協定を締結
平成 29 年　9 月　1 日	近畿地区6高専と災害等における相互応援に関する協定を締結
平成 30 年　4 月　1 日	早稲田大学大学院情報生産システム研究科と推薦入学に関する覚書を締結
平成 30 年　6 月 15 日	和歌山大学システム工学部と第3学年次編入学の情報提供に関する協定を締結
平成 30 年 10 月 10 日	養父市と社会インフラ維持管理連携協力に関する協定を締結
平成 30 年 12 月 19 日	舞鶴市、KDDI株式会社との地域活性化を目的とした連携に関する協定を締結
令和　元年 11 月　1 日	英国ポーツマス大学と学術交流に関する覚書を締結
令和　2 年　4 月 21 日	学寮(4号館)改修工事竣工
令和　3 年　2 月 26 日	実習工場A棟改修工事竣工
令和　3 年　3 月 31 日	構内ライフライン工事(1期目)竣工
令和　4 年　3 月 31 日	構内ライフライン工事(2期目)竣工
令和　5 年　3 月 10 日	学寮(5号館)改修1期工事竣工 情報科学センター改修工事竣工

3 歴代校長・名誉教授

歴代校長

氏名	在職期間
木村作治郎	昭和40年4月　1日～昭和52年4月　1日
水渡　英二	昭和52年4月　1日～昭和60年3月31日
東　愼之介	昭和60年4月　1日～平成　4年3月31日
若林　二郎	平成　4年4月　2日～平成　8年3月31日
白石　成人	平成　8年4月　1日～平成13年3月31日
東　　邦夫	平成13年4月　1日～平成15年4月16日

氏名	在職期間
荻野　文丸	平成15年4月17日～平成17年5月31日
小野　紘一	平成17年6月　1日～平成22年3月31日
太田　泰雄	平成22年4月　1日～平成27年3月31日
齋藤　福栄	平成27年4月　1日～平成30年3月31日
内海　康雄	平成30年4月　1日～令和　5年3月31日
林　　康裕	令和　5年4月　1日～

名誉教授

氏名	所属	授与日
野口　　一	電気工学科	昭和49年　4月　2日
田中　　裕	電気工学科	昭和49年　4月　2日
五十嵐安雄	機械工学科	昭和50年　4月　2日
木村作治郎	校　長	昭和52年　4月　2日
西村永太郎	機械工学科	昭和53年　4月　2日
杉本　修一	土木工学科	昭和54年　4月　2日
中谷喜久治	自然科学部門	昭和55年　4月　2日
中村　惠次	土木工学科	昭和57年　4月　2日
奥野　純平	機械工学科	昭和58年　4月　2日
竹内　　正	機械工学科	昭和59年　4月　2日
水渡　英二	校　長	昭和60年　4月　1日
山本　　孟	電気工学科	昭和63年　4月　1日
村井良多加	機械工学科	平成　3年　4月　1日
東　愼之介	校　長	平成　4年　4月　2日
戸祭　　武	人文科学部門	平成　5年　4月　1日
四方　　進	人文科学部門	平成　5年　4月　1日
藤村　重美	人文科学部門	平成　7年　4月　1日
高木　靖一	自然科学部門	平成　7年　4月　1日
新國　　誠	自然科学部門	平成　7年　4月　1日
阿波屋義照	機械工学科	平成　7年　4月　1日
多田　利雄	建設システム工学科	平成　7年　4月　1日
若林　二郎	校　長	平成　8年　4月　1日
福本　嶺生	自然科学部門	平成　8年　4月　1日
田中　　洋	人文科学部門	平成　9年　4月　1日
髙田　雄次	建設システム工学科	平成　9年　4月　1日
柴田　和作	電気工学科	平成12年　4月　1日
白石　成人	校　長	平成13年　4月　1日
市村憲太郎	人文科学部門	平成13年　4月　1日
小西　經男	電子制御工学科	平成14年　4月　1日
上田　和彦	機械工学科	平成15年　4月　1日
坪根　治廣	電気工学科	平成15年　4月　1日
東　　邦夫	校　長	平成15年　4月17日

氏名	所属	授与日
塩見　　堯	自然科学部門	平成16年　4月　1日
井渕　弘昭	機械工学科	平成17年　4月　1日
西村　萬平	電気情報工学科	平成17年　4月　1日
荻野　文丸	校　長	平成17年　6月　1日
牧野　州秀	機械工学科	平成18年　4月　1日
川勝　邦夫	機械工学科	平成19年　4月　1日
竹内　敬治	電子制御工学科	平成19年　4月　1日
武田　八郎	建設システム工学科	平成19年　4月　1日
伊藤　直人	自然科学部門	平成21年　4月　1日
北原　紀之	電気情報工学科	平成21年　3月13日
岡本　寛昭	建設システム工学科	平成22年　4月　1日
小野　紘一	校　長	平成22年　4月　1日
川合　　茂	建設システム工学科	平成23年　4月　1日
太田　泰雄	校　長	平成27年　4月　1日
三川　譲二	人文科学部門	平成27年　4月　1日
松井　信義	人文科学部門	平成27年　4月　1日
村上美登志	人文科学部門	平成27年　4月　1日
新池　一弘	電気情報工学科	平成28年　4月　1日
荒川　吉孝	人文科学部門	平成29年　4月　1日
宮野　敏男	自然科学部門	平成29年　4月　1日
垂谷　茂弘	人文科学部門	平成30年　4月　1日
金山　光一	電気情報工学科	平成30年　4月　1日
平地　克也	電気情報工学科	平成30年　4月　1日
金森　　満	電子制御工学科	平成30年　4月　1日
齋藤　福栄	校　長	平成30年　4月　1日
亀谷　　睦	自然科学部門	平成31年　4月　1日
背戸柳　実	自然科学部門	令和　3年　4月　1日
中川　重康	電気情報工学科	令和　3年　4月　1日
田村　修一	人文科学部門	令和　5年　4月　1日
西山　　等	機械工学科	令和　5年　4月　1日
四蔵　茂雄	建設システム工学科	令和　5年　4月　1日
内海　康雄	校　長	令和　5年　4月　1日

4 本科案内

一般科目

最近の急速な技術革新と産業の変化によって、一般科目の重要性はさらに増してきました。一般科目は、学生が専門科目を学ぶための準備段階として必要な技能と知識を培うだけでなく、就職後の職場や人生での変化に適応していくために必要な力を養うものです。本校の一般科目を通じて、知的好奇心を刺激し、科学的思考を養い、視野を広め、コミュニケーション能力を伸ばすことができるでしょう。それだけではなく、自己自身と自国の文化、日本の社会、現代世界についての知識を深めます。一般科目の教育は、学生の知性と専門能力の成長の上で、最も効果的な助けになるものと信じています。

人文科学部門

人文科学部門の授業は、高校から大学教養段階までの内容を含んでいます。国語、英語、その他の外国語の習得は、コミュニケーション能力を高め、日本と世界についての知識を深めてくれるでしょう。歴史総合、人間論は、自分が何者であるかを理解する助けになり、公共、法学、現代社会、哲学は、人生の困難な問題に取り組む時に指針を与えてくれます。こうした人文科学部門の授業は、技術者として働く時だけでなく、ますます国際化の進む社会において、良き市民として生きる際にも、少なからず役に立つものです。

教員

職 名	学位	氏 名	主な担当科目
教　授	修士(文学)	藤田　憲司	総合英語
	修士(文学)	児玉　圭司	法学、現代社会、科学と社会、技術者倫理
准教授	博士(文学)	牧野　雅司	歴史総合A、公共、人文特論ⅢA、ⅢB
	博士(文学)	山根　秀介	哲学、人間論、総合英語、人文特論ⅣA、ⅣB
	博士(文学)	荻田みどり	総合国語、古典、人文特論ⅡA、ⅡB、日本文化論
講　師	修士(文学)	大内真一郎	総合英語
	修士(文学)	平尾　恵美	総合英語
助　教	学士(人文科学)	岡下　朋世	総合英語
嘱託教授	博士(文学)	田村　修一	総合国語、現代文

古典グループワーク

非常勤講師

氏 名	主な担当科目
荒川　吉孝	総合英語ⅣB、V
大西　洋平	総合国語IA、IB
桑林　賢治	歴史総合B
竹原　　豊	芸術A、B
クロシュ テラニ	総合英語ⅣA、英会話B
林　　大地	人文特論IA、IB

英語スピーチフェスティバル

自然科学部門

自然科学部門では、高等学校の理系科目と大学の自然科学系科目とに相当する数学・理科・体育の３系統の科目群を再編し、人間性及び一般教養の涵養、また専門科目に対する基礎の充実を目的として、それらをカリキュラムに組み込んでいます。平成30年度より、国立高専では学生が卒業するまでに身につけるべき知識や能力の具体的な到達目標を示す、モデルコアカリキュラムを導入し、教育の質の保証のための取り組みを行っています。自然科学部門の数学･理科は、このモデルコアカリキュラムに沿った教育内容となっています。体育では、１年から５年までの全学年において、体力、技能の向上、また生涯にわたってスポーツに親しむための基礎づくりのできるカリキュラムになっています。

教員

職 名	学 位	氏 名	主な担当科目
教　授	教育学士	小野伸一郎	保健体育
	博士(理学)	奥村　昌司	微分積分、確率統計
	博士(理学)	上杉　智子	物理、応用物理
	博士(理学)	岡田　浩嗣	微分積分、確率統計
准教授	修士(体育学)	木村　健二	保健体育
	博士(理学)	宝利　　剛	物理、応用物理、近代物理学
	博士(工学)	小島　広孝	化学
	博士(数理学)	喜友名朝也	基礎数学、応用数学
講　師	博士(理学)	熊谷　大雅	基礎数学、応用解析
助　教	博士(理学)	馬越　春樹	微分積分、応用数学

授業の様子

非常勤講師

氏 名	主な担当科目
松田　若菜	化学、ライフ&アースサイエンス
姉川　尊徳	物理、応用数学
渡辺　　徹	ライフ&アースサイエンス
斎藤　康男	保健体育(剣道)
西本　信介	保健体育(柔道)
佐々木保江	保健体育
松井　素子	線形代数
堀田　和美	保健体育

授業の様子

機械工学科

機械工学という学問は、あらゆる「ものつくり」の基盤をなすもので、多種多様な知識を必要とする分野です。機械工学科における専門科目は、材料分野、エネルギー分野、流体分野、計測・制御分野など多岐にわたっています。学生たちはこれら「ものつくり」に欠かせない様々な知識を身につけることで柔軟な思考力と創造力を育むことができます。さらに、工作実習、設計製図、創造設計製作、機械工学実験といった実験・実習系科目により実践的かつ創造的技術力を身につけることができます。

機械工学科の卒業生の多くは、自動車、航空機、産業機械、食品、医薬品、機械部品など非常に広域な分野の製造・設計・開発部門などで活躍しています。また、近年では、急速なグローバル化に伴い、海外の製造現場を指揮する国際感覚豊かな卒業生も増えております。

機械工学科は、「ものつくり」のエキスパートを育てます。

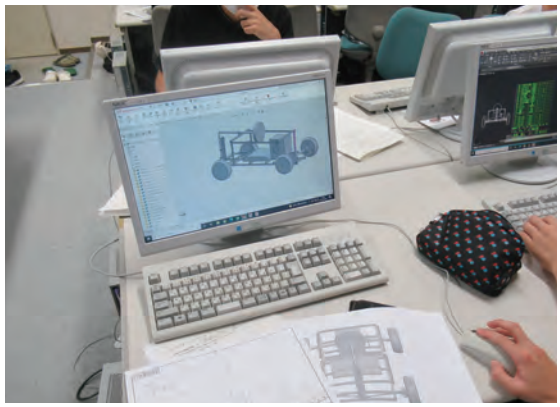
引張試験

教員

職 名	学 位	氏 名	主な担当科目
教　授	博士(工学)	篠原　正浩	材料力学、機械設計法
	博士(工学)	谷川　博哉	流体力学、材料力学
	博士(工学)	豊田　　香	工業熱力学、伝熱工学
	博士(工学)	山田耕一郎	機械力学、機械工作法
准教授	博士(工学)	小林　洋平	エネルギーシステム工学、計測工学
	博士(工学)	村上信太郎	工業力学、情報処理
	博士(工学)	室巻　孝郎	ものつくり演習、制御工学
嘱託教授	博士(工学)	西山　　等	水力学、機構学

非常勤講師

氏 名	主な担当科目
松村　直巳	材料学Ⅰ、Ⅱ
原田　翔太	創造設計製作、工作実習Ⅱ



設計製図

エンジンの性能試験

創造設計製作

電気情報工学科

電気情報工学科では、情報通信技術（ICT）の高度化と社会への適用拡大に伴い、ますます重要性が高まっている電気・電子分野と情報・通信分野の教育を行っています。要素技術教育だけではなく、PBL(Problem-Based Learning)による分野横断的教育を取り入れたカリキュラムにより、様々な社会ニーズに対応できる技術者を育成する高等教育を行っています。具体的には、電気・電子工学と情報・通信工学に関連する専門基礎知識、パワーエレクトロニクス、ネットワーク等の先端技術、近年重要性が高まっている画像処理技術などを学びます。さらに、実践的な英語教育を行い、国際舞台で活躍できるエンジニアを育てます。

卒業後は、電気・電子・情報・通信関連企業を中心に幅広い業種に就職することができます。仕事の内容も幅広く、製品やシステムの研究開発・設計・製造・検査業務、プログラミング技術を活用したソフトウェア開発業務など、適性に合わせた職種を選択できます。また、ここ数年では半数程度の学生が専攻科や大学（編入学）に進学しています。進学後、学士を取得して就職する学生だけでなく、大学院に進み修士や博士を目指す学生も増えています。

教員

職名	学位	氏名	主な担当科目
教授	博士(工学)	片山　英昭	情報理論、過渡現象論
	博士(理学)	竹澤　智樹	アナログ回路、電磁気計測
	博士(工学)	内海　淳志	電気回路、電子工学
	博士(工学)	丹下　裕	電気磁気学、回路実習
准教授	博士(工学)	舩木　英岳	ネットワーク論、オペレーティングシステム
	博士(工学)	井上　泰仁	情報数学、ディジタル回路
	博士(工学)	七森　公碩	交流回路、電気機器
講師	博士(シミュレーション学)	森　健太郎	C言語、映像メディア工学

非常勤講師

氏名	主な担当科目
中川　重康	ディジタル信号処理、パワーエレクトロニクス、工学実験
小野澤光洋	情報システム論

創造工学（4年）

電気情報工学科は、高度な情報化社会を担う技術者を育てます。

電気情報概論（1年）

電気情報工学実験（2年）

回路実習（3年）

卒業研究（5年）

電子制御工学科

本学科は、私たちの身のまわりにある家電製品、自動車、ロボット等といった様々な「モノ」に機能を与え、高性能化、知能化を実現するメカトロニクス技術者を育成します。

1. メカトロニクス分野（機械、電気電子、情報、計測制御の４分野）の専門領域を基礎から応用までバランスよく学ぶカリキュラムとなっています。
2. 機械工作、回路製作、CAD、プログラミングといった実習科目や、機械、電気電子、計測制御分野の実験科目を通じ、講義内容を実体験により確認することができます。
3. 各学年に問題解決型学習（PBL）の科目が配置されています。そこでは、ロボットをひとつの題材として、各チーム内で互いに協力して機械設計、回路設計、制御系設計、プログラミング等を行い、創造性豊かな技術者を育成します。

電子制御工学科は、実践的なメカトロニクス技術者を育てます。

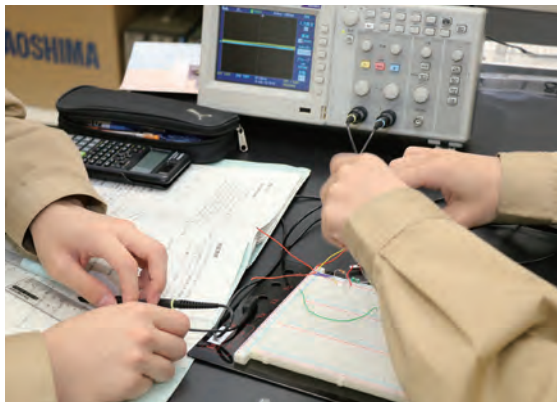
電子制御実習、トレースカー（２年）

教員

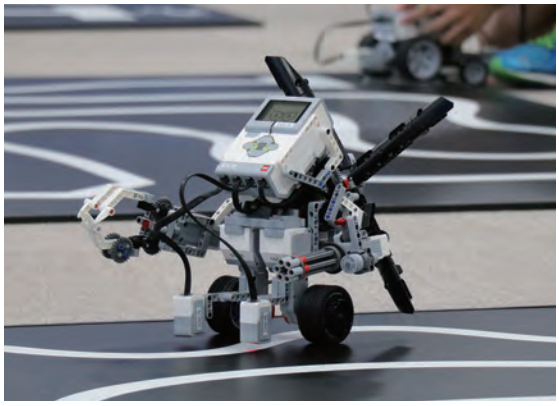
職 名	学 位	氏 名	主な担当科目
教　授	博士(工学)	野間　正泰	水力学、材料力学
	博士(工学)	仲川　　力	CAD演習、創造設計プロジェクト
	博士(工学)	伊藤　　稔	プログラミング、電子制御実験
准教授	博士(工学)	清原　修二	電子工学、電子制御実習
	博士(工学)	西　　佑介	電気磁気学、電子制御実験
	博士(工学)	石川　一平	電気基礎、電子制御実験
	博士(工学)	高木　太郎	制御工学、制御工学実験
	博士(工学)	若林　勇太	振動工学、創造設計プロジェクト

非常勤講師

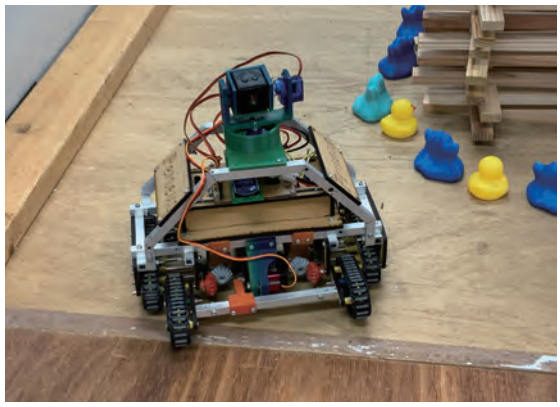
氏 名	主な担当科目
小野澤光洋	情報基礎



電子制御実験 （３年）



メカトロニクス演習Ⅰ、トレースカー（１年）



創造設計プロジェクト、ロボット（４年）

建設システム工学科

建設事業は、自然環境を守り、豊かで暮らしやすい生活を維持していくことを目的としています。そのため、橋、高速道路、上下水道、ビルや住宅等の計画・設計・施工・維持管理が行われます。

本学科は、土木建築系分野を主な対象として、上記のような社会基盤整備を行うための中核的技術者の育成を目指しています。カリキュラムは、基礎理論から応用までの幅広い科目を設けるとともに、その理解を深めるために、実験・実習や設計製図を多く取り入れています。

本学科の卒業生は、官公庁、公益企業、建設会社、建設コンサルタント、建築設計事務所などで活躍しています。

建設システム工学科はコース制を導入しています。1～3年次は建設システム工学の基礎である工学基礎系科目を学びます。4年次からコース制になり、都市環境コースと建築コースに分かれて学習します。

教員

職 名	学 位	氏 名	主な担当科目
教　授	博士(工学)	玉田　和也	構造力学、応用構造学
	博士(工学)	山崎　慎一	環境衛生学、環境工学
	博士(芸術文化学)	尾上　亮介	設計製図、都市計画
	博士(工学)	加登　文学	地盤工学、建設システム工学実験
	博士(工学)	徳永　泰伸	建築環境、建築設備
准教授	博士(工学)	渡部　昌弘	建築構造、建築一般構造
	博士(工学)	毛利　　聡	コンクリート構造学、建設システム工学実験
講　師	博士(工学)	今村友里子	建築計画、建築史
	博士(工学)	中尾　尚史	耐震工学、土木数値解析
助　教	修士(情報学)	平子　　遼	水理学、河川工学

非常勤講師

氏 名	主な担当科目
小野澤光洋	情報リテラシー
西井　正志	建築施工、建築法規、建築デザインI
矢谷　明也	建設設計製図II(建築)
粟野　周一	測量実習、測量学I、II、土木施工I、II、建設システム工学実験IA、IB
寺川　博也	建設設計製図II(都市)

建設システム工学科は、くらしの基盤を守る技術者を育てます。

学外授業（現場見学）

授業風景（建築概論）

授業風景（建築デザイン）

学生によるデザイン・設計（舞鶴市居住者促進住宅6）

5 専攻科案内

総合システム工学専攻

準学士課程での５年間の実践教育をベースに、より深い専門的知識と幅広い視野を持った技術者の育成を目標として、平成12（2000）年に専攻科が設置されました。２年間の専攻科課程を修了した学生は、大学改革支援・学位授与機構から学士（工学）の学位が授与されます。本校専攻科では、「総合システム工学専攻」に三つのコースを設置し、融合複合技術に対応しつつ、各コースでの専門分野の知識と技術を深めます。そして、問題解決能力を養い、国際社会で力を発揮できる豊かな人間性・創造性を備えた中核的技術者を育成します。

専攻科棟

■電気電子システム工学コース

電気･電子工学、情報･通信工学、制御工学等に関わる、より高度で実践的な最新の技術教育を行い、電気電子物性および電力･制御・情報通信システム等の分野で活躍し、地域の発展のために地域社会に貢献できる独創性豊かな研究開発型の技術者の育成を目指します。

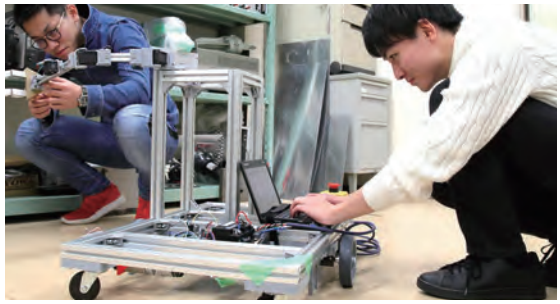
■機械制御システム工学コース

先端材料、流体工学、熱工学、制御技術およびメカトロニクス等に関わる、より高度で実践的な最新の技術教育を行い、機械システム、制御システム等の分野で活躍し、地域の発展のために地域社会に貢献できる独創性豊かな研究開発型の技術者の育成を目指します。

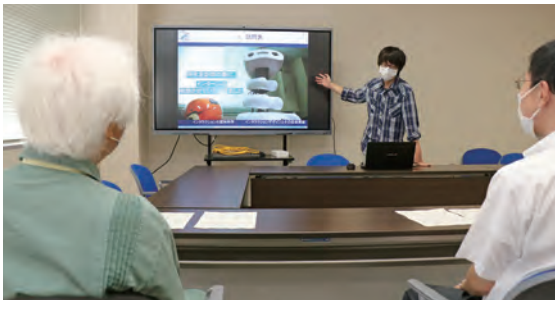
■建設工学コース

構造・耐震、建設材料、地盤、水圏環境、防災、まちづくり、建築設計、建築環境、建設計画等に関わる、より高度で実践的な最新の技術教育を行い、環境やエネルギーに配慮した自然災害に強い安全な社会基盤および建築物の設計・施工・維持管理等の分野で活躍し、地域の発展のために地域社会に貢献できる独創性豊かな研究開発型の土木・建築技術者の育成を目指します。

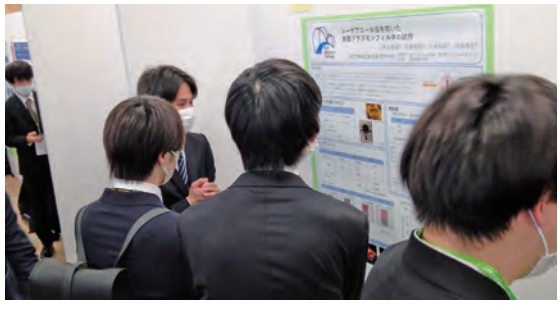
メンテナンス工学における体験学習



特別研究の様子



インターンシップ報告会



学会での研究発表

6 教育課程

授業科目表

一般科目（各学科共通）

（令和5年度第1～5学年に適用）

授業科目	単位数	1年	2年	3年	4年	5年	備考
基礎数学A	2	2					必修科目
基礎数学演習A	1	1					
基礎数学B	2	2					
基礎数学演習B	1	1					
線形代数A	1		1				
線形代数B	1		1				
微分積分ⅠA	2		2				
微分積分ⅠB	2		2				
微分積分ⅡA	2			2			
確率統計	1			1			
微分積分ⅡB	2			2			
微分積分演習	1			1			
物理ⅠA	1	1					
物理ⅠB	1	1					
物理ⅡA	1		1				
物理ⅡB	1		1				
化学ⅠA	1	1					
化学ⅠB	1	1					
化学ⅡA	1		1				
化学ⅡB	1		1				
ライフ&アースサイエンスA	1		1				
ライフ&アースサイエンスB	1		1				
保健体育Ⅰ	2	2					
保健体育Ⅱ	2		2				
保健体育Ⅲ	2			2			
総合英語ⅠA	2	2					
総合英語ⅠB	2	2					
総合英語ⅡA	2		2				
総合英語ⅡB	2		2				
総合英語ⅢA	1			1			
総合英語ⅢB	1			1			
※ 総合英語ⅣA	2				2		
※ 総合英語ⅣB	2				2		
英会話A	1			1			
英会話B	1			1			
現代文A	1	1					
現代文B	1	1					
古典A	1	1					
古典B	1	1					
総合国語ⅠA	1		1				
総合国語ⅠB	1		1				
◇ 総合国語ⅡA	1			1			
◇ 総合国語ⅡB	1			1			
芸術A	1	1					
芸術B	1	1					
歴史総合A	1	1					
歴史総合B	1	1					
公共A	1		1				
公共B	1		1				
◇ 人間論	1			1			
◇※現代社会	2				2		
◇※哲学	2				2		
◇※法学	2				2		
☆※日本語A	2			2			留学生は3～5年の人文・社会系の科目の単位と振り替えること
☆※日本語B	2			2			
☆※日本語C	2				2		
☆※日本語D	2				2		
☆※日本語E	2					2	
☆※日本語F	2					2	
※ 物理Ⅲ	2				2		機械工学科
※ 物理Ⅲ	2				2		建設システム工学科
選択科目 ※ 物理Ⅲ	2				2		電気情報工学科及び電子制御工学科
選択科目 ※ 化学Ⅲ	2						
保健体育Ⅳ	2				2		選択科目
保健体育Ⅴ	2					2	
※ 総合英語Ⅴ	2					2	
並列開講科目 ◇※人文特論ⅠA	2					2	
並列開講科目 ◇※人文特論ⅡA	2						
並列開講科目 ◇※人文特論ⅢA	2						
並列開講科目 ◇※人文特論ⅣA	2						
並列開講科目 ◇※人文特論ⅠB	2					2	
並列開講科目 ◇※人文特論ⅡB	2						
並列開講科目 ◇※人文特論ⅢB	2						
並列開講科目 ◇※人文特論ⅣB	2						
一般科目開設単位合計	83	24	22	15	14	8	75単位以上修得すること

※印は学修単位科目を示す。
☆印の科目は留学生のみに開設される，◇印の科目の代替科目である。

専門科目（機械工学科）

（令和5年度第1～5学年に適用）

授業科目	単位数	1年	2年	3年	4年	5年	備考
応用物理	1			1			必修科目
応用数学ⅠA	1				1		
応用数学ⅠB	1				1		
応用数学ⅡA	1				1		
応用数学ⅡB	1				1		
工業力学Ⅰ	1		1				
工業力学Ⅱ	1			1			
機械力学Ⅰ	1				1		
機械力学Ⅱ	1					1	
材料力学ⅠA	1			1			
材料力学ⅠB	1			1			
材料力学Ⅱ	1				1		
材料学Ⅰ	1			1			
材料学Ⅱ	1			1			
水力学Ⅰ	1				1		
水力学Ⅱ	1				1		
流体工学	1					1	
工業熱力学Ⅰ	1				1		
工業熱力学Ⅱ	1				1		
※伝熱工学	2					2	
情報処理Ⅰ	1	1					
情報処理Ⅱ	1		1				
機械設計法Ⅰ	1		1				
機械設計法Ⅱ	1			1			
機械工作法Ⅰ	1			1			
機械工作法Ⅱ	1				1		
※材料加工学	2					2	
※計測工学	2				2		
※制御工学	2				2		
入門機械実習	2	2					
工作実習Ⅰ	2		2				
工作実習Ⅱ	4			4			
設計製図Ⅰ	2	2					
設計製図Ⅱ	2		2				
設計製図Ⅲ	2			2			
設計製図Ⅳ	2				2		
設計製図Ⅴ	2					2	
機械工学実験Ⅰ	1				1		
機械工学実験Ⅱ	1					1	
工学基礎演習	1		1				
ものつくり演習	2			2			
計測工学演習	1			1			
※機械工学演習Ⅰ	2				2		
※機械工学演習Ⅱ	2					2	
※数値計算演習	2				2		
※機械工学特論	2				2		
創造設計製作	3				3		
卒業研究	10					10	
※電気回路	2					2	4単位以上修得すること
※機構学	2					2	
※エネルギーシステム工学	2					2	
専門科目開設単位合計	84	5	8	17	27	27	82単位以上修得すること

※印は学修単位科目を示す。
3～5年の全科目を留学生に開設。

授業科目表

専門科目（電気情報工学科）

（令和5年度第1～5学年に適用）

授業科目	単位数	1年	2年	3年	4年	5年	備考
応用物理Ⅰ	1			1			必修科目
応用物理Ⅱ	1			1			
応用数学ⅠA	1				1		
応用数学ⅠB	1				1		
応用数学ⅡA	1				1		
応用数学ⅡB	1				1		
電気情報概論	1	1					
電気基礎	1	1					
電気回路	1	1					
交流回路Ⅰ	1		1				
交流回路Ⅱ	1		1				
アナログ回路	1			1			
ディジタル回路	1			1			
回路実習	2			2			
電気磁気学Ⅰ	1			1			
電気磁気学Ⅱ	1			1			
※電気磁気学Ⅲ	2				2		
回路理論	1				1		
過渡現象論	1				1		
電子工学Ⅰ	1				1		
電子工学Ⅱ	1				1		
制御工学Ⅰ	1				1		
制御工学Ⅱ	1				1		
※電気機器	2				2		
※電磁気計測	2					2	
エネルギー工学Ⅰ	1					1	
エネルギー工学Ⅱ	1					1	
情報基礎	1	1					
メディアリテラシー	1	1					
情報数学	1		1				
C言語	1		1				
プログラミング実習	2			2			
情報理論	1			1			
アナログ信号処理	1			1			
ディジタル信号処理	1			1			
※論理回路	2				2		
※通信工学	2				2		
※ネットワーク論	2				2		
※オペレーティングシステム	2					2	
※情報システム論	2					2	
電気情報工学実験ⅠA	2		2				
電気情報工学実験ⅠB	2		2				
電気情報工学実験ⅡA	2			2			
電気情報工学実験ⅡB	2			2			
電気情報工学実験ⅢA	2				2		
電気情報工学実験ⅢB	2				2		
電気情報工学実験ⅣA	2					2	
電気情報工学実験ⅣB	2					2	
創造工学	1				1		
工学基礎研究	1				1		
卒業研究	10					10	
※伝送工学	2					2	4単位以上修得すること
※半導体工学	2					2	
※データ構造とアルゴリズム	2					2	
※映像メディア工学	2					2	
専門科目開設単位合計	86	5	8	17	26	30	82単位以上修得すること

※印は学修単位科目を示す。
3～5年の全科目を留学生に開設。

専門科目（電子制御工学科）

（令和5年度第1～5学年に適用）

授業科目	単位数	1年	2年	3年	4年	5年	備考
応用物理Ⅰ	1			1			必修科目
応用物理Ⅱ	1			1			
応用数学ⅠA	1				1		
応用数学ⅠB	1				1		
応用数学ⅡA	1				1		
応用数学ⅡB	1				1		
電気基礎Ⅰ	1	1					
電気基礎Ⅱ	1	1					
電子工学Ⅰ	1		1				
電子工学Ⅱ	1		1				
電子回路Ⅰ	1			1			
電子回路Ⅱ	1			1			
※電子回路Ⅲ	2				2		
電子回路Ⅳ	1					1	
電気磁気学Ⅰ	1				1		
電気磁気学Ⅱ	1				1		
力学Ⅰ	1			1			
力学Ⅱ	1			1			
水力学Ⅰ	1				1		
水力学Ⅱ	1				1		
熱力学Ⅰ	1				1		
熱力学Ⅱ	1				1		
材料力学Ⅰ	1				1		
材料力学Ⅱ	1				1		
振動工学Ⅰ	1				1		
振動工学Ⅱ	1					1	
情報基礎	1	1					
プログラミングⅠ	1		1				
プログラミングⅡ	1			1			
プログラミングⅢ	1			1			
組込みシステムⅠ	1			1			
組込みシステムⅡ	1			1			
※数値計算法	2					2	
制御工学Ⅰ	1			1			
制御工学Ⅱ	1				1		
※制御工学Ⅲ	2				2		
※システム制御	2					2	
※計測工学	2					2	
※ロボティクスⅠ	2				2		
※ロボティクスⅡ	2				2		
※ロボットビジョン	2					2	
メカトロニクス演習Ⅰ	1	1					
メカトロニクス演習Ⅱ	1	1					
製図基礎	1		1				
CAD演習Ⅰ	1			1			
CAD演習Ⅱ	1			1			
制御系設計演習	1					1	
回路設計演習	1					1	
電子制御実習	4		4				
電子制御実験	4			4			
創造設計プロジェクト	2				2		
機械工学実験	2				2		
制御工学実験	2					2	
卒業研究	10					10	
※ロボティクスⅢ	2					2	2単位以上修得すること
※情報学	2					2	
専門科目開設単位合計	84	5	8	17	26	28	82単位以上修得すること

※印は学修単位科目を示す。
3～5年の全科目を留学生に開設。

授業科目表

専門科目（建設システム工学科）

（令和5年度第1～5学年に適用）

授業科目	単位数	1年	2年	3年	4年	5年	備考	
建設システム工学概論Ⅰ	1	1						必修科目
建設システム工学概論Ⅱ	1	1						
応用物理Ⅰ	1			1				
応用物理Ⅱ	1			1				
応用数学ⅠA	1				1			
応用数学ⅠB	1				1			
応用数学ⅡA	1				1			
応用数学ⅡB	1				1			
情報リテラシー	1	1						
情報処理	1					1		
構造力学ⅠA	1		1					
構造力学ⅠB	1		1					
構造力学ⅡA	1			1				
構造力学ⅡB	1			1				
構造力学ⅢA	1				1			
構造力学ⅢB	1				1			
建築一般構造	1			1				
建設材料学	1			1				
コンクリート構造学Ⅰ	1				1			
※コンクリート構造学Ⅱ	2				2			
※鋼構造学	2					2		
水理学ⅠA	1			1				
水理学ⅠB	1			1				
地盤工学ⅠA	1			1				
地盤工学ⅠB	1			1				
※地盤工学Ⅱ	2				2			
※環境工学Ⅰ	2				2			
都市計画	1			1				
建築計画Ⅰ	1			1				
※建築史	2				2			
測量学Ⅰ	1	1						
測量学Ⅱ	1		1					
応用測量学Ⅰ	1					1		
応用測量学Ⅱ	1					1		
測量実習	3		3					
建設システム工学実験ⅠA	1			1				
建設システム工学実験ⅠB	1			1				
建設製図Ⅰ	1	1						
建設製図Ⅱ	2		2					
建設製図制作	3			3				
※建設設計製図Ⅰ	2				2			
建設設計製図Ⅱ	2					2		
卒業研究・卒業設計	10					10		
※水理学Ⅱ	2				2			都市環境コース科目
※河川工学	2				2			
海岸工学	1					1		
土木施工Ⅰ	1				1			
土木施工Ⅱ	1					1		
環境衛生学Ⅰ	1				1			
環境衛生学Ⅱ	1				1			
環境工学ⅡA	1					1		
環境工学ⅡB	1					1		
※土木計画	2				2			
建設システム工学実験ⅡA	1				1			
建設システム工学実験ⅡB	1				1			
※建築計画Ⅱ	2				2			建築コース科目
※建築論	2				2			
建築構造Ⅰ	1				1			
建築構造Ⅱ	1					1		
※建築施工	2				2			
建築環境Ⅰ	1				1			
建築環境Ⅱ	1				1			
建築設備Ⅰ	1					1		
建築設備Ⅱ	1					1		
建築法規	1					1		
建築デザイン	2				2			
応用構造力学	1					1		
※建設設計製図Ⅲ	2					2	3単位以上修得すること	
※耐震工学	2					2		
地盤防災工学	1					1		
専門科目開設単位合計	85	5	8	17	28	27	82単位以上修得すること	

※印は学修単位科目を示す。
3～5年の全科目を留学生に開設。

学則第14条第3項に基づく科目

（令和5年度第1～5学年に適用）

授業科目	単位数	1年	2年	3年	4年	5年	備考
防災リテラシー	1	1					
インターンシップ	1~4				1~2	1~2	企業・高等教育機関それぞれ2単位以内，各学年2単位以内

卒業に必要な単位数(167単位)に含めることができる。
卒業に必要な一般科目の単位数および専門科目の単位数に含めることはできない。

学則第14条の4および第14条の5の規定に基づく単位認定

	単位数	1年	2年	3年	4年	5年	備考
知識・技能審査に係る単位認定	6単位以内				3単位以内	6単位以内	「舞鶴工業高等専門学校知識・技能審査に係る単位認定に関する規程（準学士課程）」
舞鶴工業高等専門学校以外の教育施設における学修	60単位以内						「舞鶴工業高等専門学校以外の教育施設における学修に関する規程（準学士課程）」

卒業に必要な単位数(167単位)に含めることができる。
卒業に必要な一般科目の単位数および専門科目の単位数に含めることはできない。

授業科目表

総合システム工学専攻・電気電子システム工学コース

（令和5年度の入学者に適用）

授業科目			単位数	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	備考
一般科目	一般	◎英語演習Ⅰ	1	1				
		◎英語演習Ⅱ	1		1			
		日本文化論	2			2		
		科学と社会	2			2		
		近代物理学	2		2			
		一般科目開設単位計	8	1	3	4	0	
		一般科目　修得単位	6単位以上					
専門科目	専門共通科目	◎特別演習	2				2	
		◎応用解析Ⅰ	2	2				
		◎応用解析Ⅱ	2		2			
		◎技術者倫理	2				2	
		◎環境工学特論	2			2		
		ネットワークシステム論	2			2		
		画像工学	2		2			
		先端材料工学	2	2				
		エネルギー工学	2	2				
		システム設計学	2		2			
		流体工学特論	2		2			
		専門共通科目開設単位計	22	6	8	4	4	
		専門共通科目　修得単位	18単位以上					
	専門コース科目	◎特別研究基礎	8	4	4			
		◎特別研究	10			5	5	学修総まとめ科目
		◎特別実験	2	2				
		◎＊エンジニアリング・デザイン演習	2		2			
		◎＊システム制御工学	2	2				
		パワーエレクトロニクス	2			2		
		情報工学	2	2				
		電磁気応用工学	2		2			
		応用通信工学	2	2				
		＊信号処理特論	2	2				
		＊電子回路特論	2		2			
		＊制御工学特論	2		2			
		＊知識情報工学	2			2		
		電子デバイス工学	2		2			
		インターンシップ	2	(2)				
		専門コース科目開設単位計	44	14(2)	14(2)	9(2)	5(2)	
		専門コース科目　修得単位	38単位以上					
		専門科目　修得単位	56単位以上					
一般・専門科目開設単位合計			74	21(2)	25(2)	17(2)	9(2)	
一般・専門科目　修得単位　合計			62単位以上					

（注）◎は必修科目
＊は機械制御システム工学コースと同時開講

総合システム工学専攻・機械制御システム工学コース

（令和5年度の入学者に適用）

授業科目			単位数	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	備考
一般科目	一般	◎英語演習Ⅰ	1	1				
		◎英語演習Ⅱ	1		1			
		日本文化論	2			2		
		科学と社会	2			2		
		近代物理学	2		2			
		一般科目開設単位計	8	1	3	4	0	
		一般科目　修得単位	6単位以上					
専門科目	専門共通科目	◎特別演習	2				2	
		◎応用解析Ⅰ	2	2				
		◎応用解析Ⅱ	2		2			
		◎技術者倫理	2				2	
		◎環境工学特論	2			2		
		ネットワークシステム論	2			2		
		画像工学	2		2			
		先端材料工学	2	2				
		エネルギー工学	2	2				
		システム設計学	2		2			
		流体工学特論	2		2			
		専門共通科目開設単位計	22	6	8	4	4	
		専門共通科目　修得単位	18単位以上					
	専門コース科目	◎特別研究基礎	8	4	4			
		◎特別研究	10			5	5	学修総まとめ科目
		◎特別実験	2	2				
		◎＊エンジニアリング・デザイン演習	2		2			
		◎＊システム制御工学	2	2				
		材料力学特論Ⅰ	2	2				
		材料力学特論Ⅱ	2		2			
		＊信号処理特論	2	2				
		流体力学	2	2				
		プラント工学	2			2		
		＊電子回路特論	2		2			
		＊制御工学特論	2		2			
		＊知識情報工学	2			2		
		エネルギー環境学	2		2			
		インターンシップ	2	(2)				
		専門コース科目開設単位計	44	14(2)	14(2)	9(2)	5(2)	
		専門コース科目　修得単位	38単位以上					
		専門科目　修得単位	56単位以上					
一般・専門科目開設単位合計			74	21(2)	25(2)	17(2)	9(2)	
一般・専門科目　修得単位　合計			62単位以上					

（注）◎は必修科目
＊は電気電子システム工学コースと同時開講

総合システム工学専攻・建設工学コース

（令和5年度の入学者に適用）

授業科目			単位数	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	備考
一般科目	一般	◎英語演習Ⅰ	1	1				
		◎英語演習Ⅱ	1		1			
		日本文化論	2			2		
		科学と社会	2			2		
		近代物理学	2		2			
		一般科目開設単位計	8	1	3	4	0	
		一般科目　修得単位	6単位以上					
専門科目	専門共通科目	◎特別演習	2				2	
		◎応用解析Ⅰ	2	2				
		◎応用解析Ⅱ	2		2			
		◎技術者倫理	2				2	
		◎環境工学特論	2			2		
		ネットワークシステム論	2			2		
		画像工学	2		2			
		先端材料工学	2	2				
		エネルギー工学	2	2				
		システム設計学	2		2			
		流体工学特論	2		2			
		専門共通科目開設単位計	22	6	8	4	4	
		専門共通科目　修得単位	18単位以上					
	専門コース科目	◎特別研究基礎	8	4	4			
		◎特別研究	10			5	5	学修総まとめ科目
		◎特別実験	2	2				
		◎エンジニアリング・デザイン演習	2		2			
		◎構造力学特論	2	2				
		まちづくり学	2		2			
		耐震工学特論	2		2			
		建設材料特論	2		2			
		メンテナンス工学	2			2		
		地盤工学特論	2			2		
		水理学特論	2		2			
		土木数値解析	2	2				
		建築環境工学特論	2			2		
		空間デザイン論	2				2	
		設計演習	2	2				
		インターンシップ	2	(2)				
		専門コース科目開設単位計	46	12(2)	14(2)	11(2)	7(2)	
		専門コース科目　修得単位	38単位以上					
		専門科目　修得単位	56単位以上					
一般・専門科目開設単位合計			76	19(2)	25(2)	19(2)	11(2)	
一般・専門科目　修得単位　合計			62単位以上					

（注）◎は必修科目

（令和4年度の入学者に適用の授業科目表については本校ホームページ
https://www.maizuru-ct.ac.jp/campuslife/syllabus/ に掲載しています。）

7 施設案内

図書館

本校図書館は、開架閲覧室、ＡＶコーナー、パソコンコーナーを備え、約9万4千冊の蔵書を利用に供しています。書籍、雑誌だけでなく、ＡＶコーナーではビデオやＤＶＤを視聴できます。さらに、パソコンを利用しての図書の検索や、新聞記事データベースの閲覧も可能です。

開館時間

月～金　午前 8:30 - 午後 9:00
土　　午後 1:00 - 午後 6:00　　日・祝　休館

図書館

閲覧室

蔵書

区分	図書			雑誌		
	和書	洋書	計	和書	洋書	計
総　記(0)	14,953	146	15,099	6	0	6
哲　学(1)	4,007	238	4,245	3	0	3
歴史地理(2)	5,856	87	5,943	13	0	13
社会科学(3)	7,271	448	7,719	5	0	5
自然科学(4)	13,174	2,595	15,769	16	58	74
工　学(5)	22,435	1,850	24,285	71	51	122
産　業(6)	878	13	891	1	0	1
芸　術(7)	3,428	63	3,491	8	0	8
語　学(8)	3,324	1,929	5,253	1	0	1
文　学(9)	10,325	1,201	11,526	6	0	6
計	85,651	8,570	94,221	130	109	239

令和５年４月１日現在

情報科学センター

情報科学センターは、情報科学に関する教育・研究の推進及び学外との技術交流の中心的役割を果たすために設置されたセンターです。本センターは、主に教育用電子計算機システムと基幹情報ネットワークの管理と運用を行っています。教育用電子計算機システムとして、本校内の４演習室に合計180台のWindows端末が教育用端末として設置されています。基幹情報ネットワークとして、校内に無線LAN環境も提供しています。基幹情報ネットワークは学術情報ネットワーク(SINET)と専用線で結ばれています。

情報科学センター

演習室

CAD／CAM実験室

教育研究支援センター

教育研究支援センターでは、本校の各部門・学科、図書館、情報科学センター及び地域共同テクノセンターが行う教育・研究に関し、技術に係わる専門的業務を組織的かつ効率的に支援するほか 、地域との連携並びに社会貢献活動を行っています。

実践教育を重視する本校では、特に実験実習や卒業研究などで、教員と共に学生を手厚くサポートしています。

実習工場での工作実習

水理実験の様子

主な業務

- ●学生の実験・実習及び卒業研究・特別研究等の技術指導に関すること。
- ●教員の教育研究活動に対する技術支援に関すること。
- ●教育研究等に関する技術業務の年間計画の策定に関すること。
- ●実験・実習機器・設備等の保守・管理及び災害防止に関すること。
- ●学生の課外活動の技術指導に関すること。
- ●産学官及び地域との連携並びに社会貢献活動における技術提供及び技術協力に関すること。
- ●技術の習得、継承、保存及び研修等に関すること。
- ●その他センターの目的達成のために必要な業務に関すること。

国際交流センター

国際交流センターは、社会のグローバル化に対応する技術者教育を支援するため、本校と海外の高等教育機関、海外にある企業との交流を推進しています。活動内容は、学術交流協定の締結、海外研修旅行の支援、インターンシップ等を目的とする協定校との選抜学生の相互派遣、教員の研究交流に対する支援、留学生と日本人学生との交流の促進などです。

協定校は、現在、次の６校です。

キングモンクット工科大学ラカバン（タイ･バンコク）
高麗大学（韓国・ソウル）
大連職業技術学院（中国・大連）
國立高雄科技大學（台湾・高雄）
交通通信大学（ベトナム・ハノイ）
国立建設大学（ベトナム・ハノイ）

また、次の大学学部、研究機関にもインターンシップ学生を派遣しています。

マレーシア工科大学機械工学部
（マレーシア・クアラルンプール）
マレーシア日本国際工科院
（マレーシア・クアラルンプール）

キングモンクット工科大学留学生（修了証書授与式）

海外研修旅行（マレーシア・マレーシア日本国際工科院）

地域共同テクノセンター

地域共同テクノセンターは、次の事業を行っています。
①地域産業界等との共同研究、技術交流の推進
②地域に開かれた体験教育、
技術者再教育（リカレント教育）
③総合技術開発能力のある学生の育成
④学科の枠を超えた横断的な研究、協力支援
⑤知的財産に関する教育

地域共同テクノセンター

ナノテクノロジー教育センター ntec

ナノテクノロジー教育センター（ntec）は、超微細加工技術に関する実践的な教育システムを達成するために開設されました。高専生や小・中学生、京都北部地域の企業などを対象にナノテクノロジーに特化した人材育成を行っています。

舞鶴高専地域テクノアカデミア

舞鶴高専地域テクノアカデミアは、会員企業様に舞鶴高専の教育と研究をご支援いただくと同時に、本校との交流を密にして、地域の企業様の発展と振興をご支援させていただくことを目的に設立されました。総会のほか、企業見学会、会員企業の紹介冊子の作成と学生への配布等の活動を行っています。

社会基盤メンテナンス教育センター

社会基盤メンテナンス教育センター（iMec）は、インフラの維持管理に関する実践的な教育システムを構築し、全国の高専生や地方自治体職員、民間技術者などを幅広く受け入れ、現場に密着した教育センターとして、維持管理技術に特化した人材育成を行っています。iMecでは、eラーニング、座学、体験型学修を組合せた技術者育成カリキュラムにより、アクティブ・ラーニングを積極的に取り入れた講習会を開催しています。

橋梁メンテナンス技術者育成のステップアップ型教育プログラムとして、基礎編（橋梁点検）、応用編（橋梁点検）及び橋梁診断講習会を実施しており、講習会修了後に実施する技術資格認定試験の合格者には、(独)国立高等専門学校機構として技術資格（准橋梁点検技術者、橋梁点検技術者及び橋梁診断技術者、橋梁点検技術者及び橋梁診断技術者は国土交通省登録資格）を認定しています。

上記の他に、コンクリートの品質管理講習会などの講習会を開催しています。詳しくはHPをご覧ください。（「iMec、舞鶴」で検索）

実物劣化モデルによる実習フィールド

iMec講義棟

野外実習棟

体験型学修の様子

体験型学修の様子

8 学生の概要

定員及び現員

学 科	入学定員	1年	2年	3年	4年	5年	計
機械工学科	40	41(5)	41(9)	33(3)	39(2)	36(5)	190(24)
電気情報工学科	40	43(10)	41(12)	36(4)	36(7)	32(6)	188(39)
電子制御工学科	40	42(3)	40(4)	38(2)	43(2)	39(5)	202(16)
建設システム工学科	40	40(15)	46(17)	31(7)	40(14)	42(13)	199(66)
合 計	160	166(33)	168(42)	138(16)	158(25)	149(29)	779(145)

専 攻	入学定員	1年	2年	計
総合システム工学専攻	16	15(2)	18(2)	33(4)
電気電子システム工学コース		6(0)	8(0)	14(0)
機械制御システム工学コース		4(0)	4(0)	8(0)
建設工学コース		5(2)	6(2)	11(4)

令和５年４月１日現在　（　）内は女子で内数(単位：人)

出身国別外国人留学生

出身国	本科3年	本科4年	本科5年	専攻科1年	専攻科2年	計	本科3年				本科4年				本科5年				専攻科1年			専攻科2年		
							M	E	S	C	M	E	S	C	M	E	S	C	ES	MS	CA	ES	MS	CA
カンボジア	1					1				1														
マレーシア			1			1												1						
モンゴル		1	1			2						1				1								
ラオス				1		1													1					
合 計	1	1	2	1	0	5	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0

令和５年４月１日現在(単位：人)

※本科
M:機械工学科
E:電気情報工学科
S:電子制御工学科
C:建設システム工学科

専攻科
ES:電気電子システム工学コース
MS:機械制御システム工学コース
CA:建設工学コース

出身府県別学生数

学 年		府 県						合 計
		京 都	福 井	兵 庫	滋 賀	大 阪	その他	
本 科	1学年	73	4	28	32	22	7	166
	2学年	92	1	29	22	17	7	168
	3学年	66	3	26	22	10	10	137
	4学年	87	6	26	25	8	5	157
	5学年	66	2	29	27	20	3	147
	合 計	384	16	138	128	77	32	775
専攻科	1学年	6	0	4	2	1	1	14
	2学年	10	0	4	1	1	2	18
	合 計	16	0	8	3	2	3	32
総 計		400	16	146	131	79	35	807

※留学生(5名)は除く

京都府内出身地域別在籍学生数

京丹後市	与謝地区	舞鶴市	中丹地区	京都市	南丹地区	乙訓・山城地区	合計
18	9	99	49	98	37	90	400

令和５年４月１日現在(単位：人)

クラブ・同好会

クラブ			同好会
体育系		文化系	文化系
陸上競技	ハンドボール	自動車	文学研究会
バスケットボール	バドミントン	アマチュア無線	鉄道研究会
バレーボール	水 泳	吹奏楽	シビックデザイン
ソフトテニス	テニス	プログラマーズコミュニティ	
卓 球	弓 道	創造技術研究会	
柔 道	空手道	華 道	
剣 道	フリークライミング	デザコン	
サッカー		軽音楽	
硬式野球		HANDMADE	

学費・寮費

費 目	入学時	年 間	備 考
入 学 料	84,600		
授 業 料		234,600	前期(5月)・後期(10月)に分納
教科書代	約45,000		学科によって若干異なる
教 材 費	約46,000		体操服・水着なども含む、男子・女子によって若干異なる
研修旅行積立金		32,000	前期(4月)・後期(10月)に分納(本科1～3年)
学生会費	2,500	6,000	前期(4月)・後期(10月)に分納
後援会諸経費	10,000	24,500	前期(4月)・後期(10月)に分納
合 計	約188,100	297,100	

(注) 在学中に授業料の改定が行われた場合は、改定時から新授業料が適用されます。高等学校等就学支援金受給者の授業料納付額は、年間授業料から就学支援金支給額（118,800円～234,600円）を差し引いた額です。

学寮経費

費 目		月 額	備 考
寄宿料	複数人部屋	700	前期(4月)・後期(10月)に6ヵ月分納入
	個 室	800	
学寮諸経費		12,800	前期(4月)・後期(10月)に6ヵ月分納入
寮生会費		200	前期(4月)・後期(10月)に6ヵ月分納入
食 費		27,600	30日分喫食の場合(1日920円)
食堂運営費		8,700	30日分の場合(1日290円)
合 計		50,000～50,100	

(注) 学寮諸経費とは、水道光熱費、エアコン経費、洗濯・乾燥機リース料、ごみ処理費、共用消耗品購入費、インターネット設備費など、日常生活で必要となる費用です。

奨学制度

奨学生数

(令和５年３月現在)

奨学金の種類		奨学生数							
		1年	2年	3年	4年	5年	専1年	専2年	計
日本学生支援機構奨学金	第一種	1	3	5	6	5	3	0	23
	第二種	対象外			1	2	1	1	5
	給付型	対象外			12	16	1	1	30
京都府高等学校等修学資金		0	0	0	4	1	対象外		5
その他府県奨学金		1	0	0	4	0	0	0	5
市町村奨学金		2	0	2	0	1	0	0	5
法人等の奨学金		1	4	3	3	7	0	0	18

授業料免除者数

区 分	免除者数				
	4年	5年	専1年	専2年	計
前 期	12	15	1	1	29
後 期	15	13	1	1	30

入学料免除者数 …… 1名　　入学料徴収猶予者数 …… 0名

授業料免除における特別措置　対象者数（高等学校就学支援金受給者については、支給後の本人負担額を免除）
免除者数　前期…0名　　後期…0名

卓越した学生に対する授業料免除　　免除者数　後期…4年生4名（半額免除）

9 進路状況

卒業生進路概要

本　科

求人及び決定状況

令和５年３月31日現在

学 科	卒業者数	就職希望者数	内定者数	大学・専攻科進学希望者数	合格者数	その他	求人会社数(社)	求人数(人)	求人倍率
機械工学科	32	21	21	11	11	0	718	758	36.1
電気情報工学科	40	29	29	11	11	0	732	768	26.5
電子制御工学科	30	14	14	15	15	1	702	733	52.4
建設システム工学科（都市環境コース）	18	11	10	7	7	0	474	534	48.5
建設システム工学科（建築コース）	18	10	10	8	8	0	462	493	49.3
合 計	138	85	84	52	52	1	3088	3286	38.7

求人会社数は、学科間の重複を含む。

専攻科

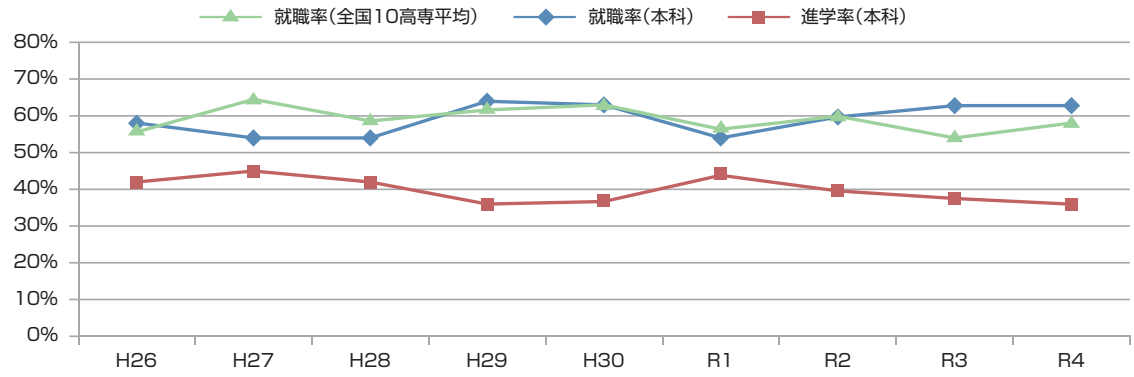
求人及び決定状況

令和５年３月31日現在

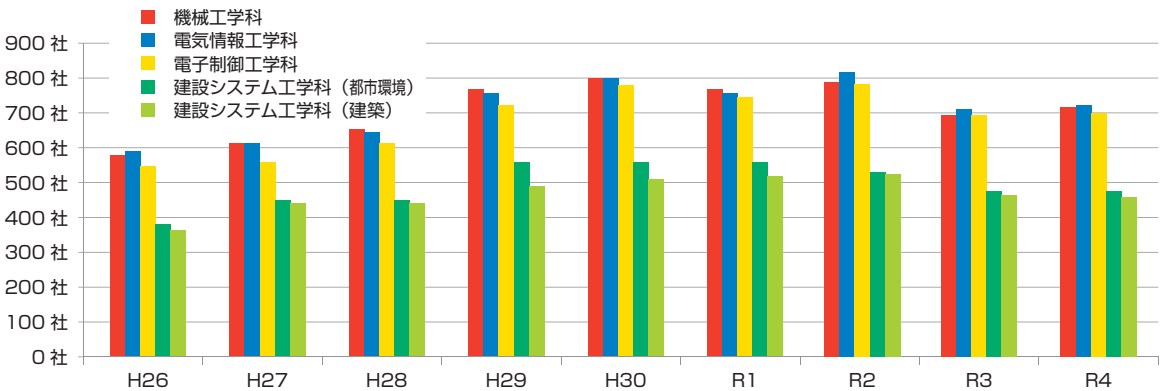
コース	修了者数	就職希望者数	内定者数	大学・専攻科進学希望者数	合格者数	その他	求人会社数(社)	求人数(人)	求人倍率
電気電子システム工学コース	11	7	7	4	4	0	655	679	97.0
機械制御システム工学コース	4	3	3	1	1	0	640	664	221.3
建設工学コース	4	3	3	1	1	0	446	515	171.7
合 計	19	13	13	6	6	0	1741	1858	142.9

求人会社数は、コース間の重複を含む。

就職と進学の割合



求人会社数の推移



就職決定先の業種別状況

本　科

学科	建設	食品	繊維	出版・印刷	化学	鉄鋼・金属	機械	電気機器	輸送用機器	精密機器	電力・ガス	その他製造	情報通信	運輸・通信	卸売・小売	不動産・賃貸	生活・娯楽	学術サービス	その他サービス	官公庁	合計
機械工学科	0	4	0	1	1	0	9	0	2	0	1	0	1	0	0	0	0	2	0	0	21
	0.0%	19.0%	0.0%	4.8%	4.8%	0.0%	42.9%	0.0%	9.5%	0.0%	4.8%	0.0%	4.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	9.5%	0.0%	0.0%	
電気情報工学科	0	0	0	0	1	0	8	3	0	3	1	0	6	0	1	0	0	3	2	1	29
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.4%	0.0%	27.6%	10.3%	0.0%	10.3%	3.4%	0.0%	20.7%	0.0%	3.4%	0.0%	0.0%	10.3%	6.9%	3.4%	
電子制御工学科	0	0	0	0	1	0	4	1	1	3	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2	14
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	0.0%	28.6%	7.1%	7.1%	21.4%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	0.0%	14.3%	
建設システム工学科（都市環境コース）	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	1	10
	60.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	10.0%	
建設システム工学科（建築コース）	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2	0	1	10
	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	0.0%	20.0%	0.0%	10.0%	
合　計	11	4	0	1	3	0	21	4	3	6	3	0	7	2	1	1	0	10	2	5	84
	13.1%	4.8%	0.0%	1.2%	3.6%	0.0%	25.0%	4.8%	3.6%	7.1%	3.6%	0.0%	8.3%	2.4%	1.2%	1.2%	0.0%	11.9%	2.4%	6.0%	

上段の数字は人数を示す。

専攻科

コース	建設	食品	繊維	出版・印刷	化学	鉄鋼・金属	機械	電気機器	輸送用機器	精密機器	電力・ガス	その他製造	情報通信	運輸・通信	卸売・小売	不動産・賃貸	生活・娯楽	学術サービス	その他サービス	官公庁	合計
電気電子システム工学コース	0	0	0	0	0	0	2	2	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	7
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	28.6%	28.6%	0.0%	28.6%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
機械制御システム工学コース	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	
建設工学コース	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	
合計	2	0	0	0	0	0	2	2	0	3	1	0	1	0	0	0	1	0	0	1	13
	15.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	15.4%	15.4%	0.0%	23.1%	7.7%	0.0%	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%	7.7%	0.0%	0.0%	7.7%	

上段の数字は人数を示す。

進学状況

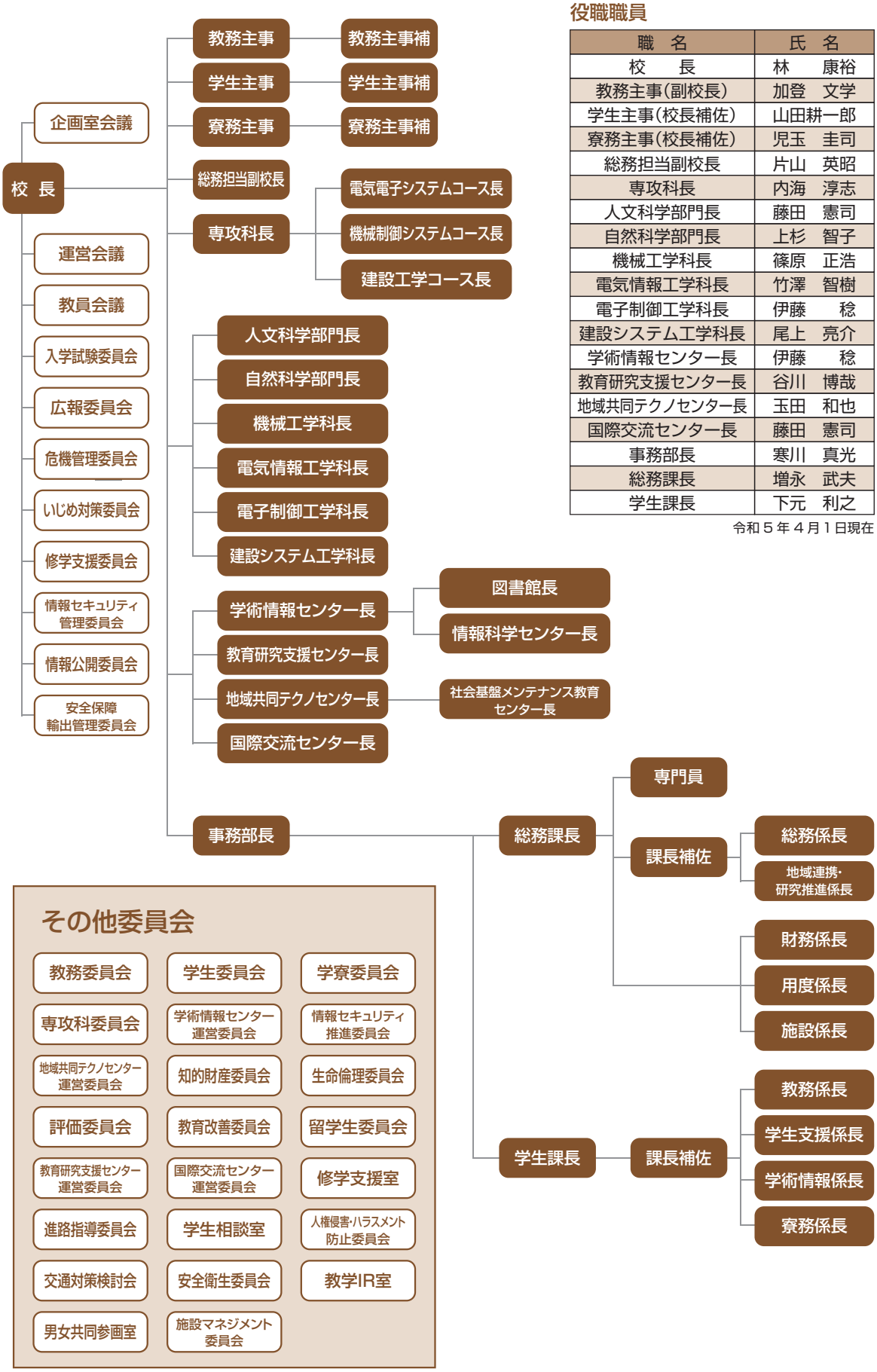
本　科

	2019年度（令和元年度）	2020年度（令和2年度）	2021年度（令和3年度）	2022年度（令和4年度）	2023年度（令和5年度）	合計
東北大学	1名	1名		1名		3名
新潟大学	1名			1名		2名
筑波大学	2名					2名
千葉大学	3名	1名				4名
電気通信大学		1名			1名	2名
横浜国立大学			1名			1名
長岡技術科学大学	8名	6名	3名	7名	8名	32名
金沢大学		1名	1名	1名		3名
福井大学	2名	1名	1名	1名	2名	7名
信州大学	2名		1名			3名
静岡大学			1名			1名
岐阜大学	1名	2名	2名	2名		7名
豊橋技術科学大学	11名	11名	9名	8名	10名	49名
三重大学		1名		1名	1名	3名
京都大学		1名				1名
京都工芸繊維大学	4名	1名	2名	1名	2名	10名
大阪大学	1名		2名	1名	2名	6名
神戸大学	1名					1名
和歌山大学		3名	1名		1名	5名
岡山大学	1名	3名	1名	2名	2名	9名
広島大学				1名		1名
愛媛大学					1名	1名
九州大学		1名	2名	1名	1名	5名
九州工業大学					1名	1名
佐賀大学			1名	1名		2名
熊本大学					1名	1名
滋賀県立大学			1名			1名
福知山公立大学				1名		1名
高知工科大学			1名			1名
京都造形芸術大学			1名			1名
立命館大学	1名	2名		3名	4名	10名
関西大学					1名	1名
近畿大学				1名		1名
神戸芸術工科大学				1名	1名	2名
サイバー大学				1名		1名
舞鶴高専専攻科	16名	26名	18名	16名	15名	91名
奈良高専専攻科				1名		1名
松江高専専攻科			1名			1名
近畿大学高専専攻科		1名	1名	1名		3名
合　計	55名	63名	51名	54名	54名	277名

専攻科

	2019年度（令和元年度）	2020年度（令和2年度）	2021年度（令和3年度）	2022年度（令和4年度）	2023年度（令和5年度）	合計
東京大学大学院	1名					1名
筑波大学大学院			1名			1名
長岡技術科学大学大学院					1名	1名
北陸先端科学技術大学院大学				1名	1名	2名
豊橋技術科学大学大学院	1名					1名
名古屋工業大学大学院					1名	1名
京都工芸繊維大学大学院		1名				1名
大阪大学大学院		1名	1名			2名
大阪市立大学大学院		1名				1名
奈良先端科学技術大学院大学		1名	3名	2名	2名	8名
神戸大学大学院	1名		1名	1名		3名
和歌山大学大学院			1名			1名
九州大学大学院	1名					1名
九州工業大学大学院	1名					1名
大阪府立大学大学院	1名					1名
兵庫県立大学大学院				2名	1名	3名
滋賀県立大学大学院				1名		1名
合　計	6名	4名	7名	7名	6名	30名

10 組織概要



その他委員会

教務委員会	学生委員会	学寮委員会
専攻科委員会	学術情報センター運営委員会	情報セキュリティ推進委員会
地域共同テクノセンター運営委員会	知的財産委員会	生命倫理委員会
評価委員会	教育改善委員会	留学生委員会
教育研究支援センター運営委員会	国際交流センター運営委員会	修学支援室
進路指導委員会	学生相談室	人権侵害・ハラスメント防止委員会
交通対策検討会	安全衛生委員会	教学IR室
男女共同参画室	施設マネジメント委員会	

役職職員

職　名	氏　名
校　長	林　康裕
教務主事(副校長)	加登　文学
学生主事(校長補佐)	山田耕一郎
寮務主事(校長補佐)	児玉　圭司
総務担当副校長	片山　英昭
専攻科長	内海　淳志
人文科学部門長	藤田　憲司
自然科学部門長	上杉　智子
機械工学科長	篠原　正浩
電気情報工学科長	竹澤　智樹
電子制御工学科長	伊藤　稔
建設システム工学科長	尾上　亮介
学術情報センター長	伊藤　稔
教育研究支援センター長	谷川　博哉
地域共同テクノセンター長	玉田　和也
国際交流センター長	藤田　憲司
事務部長	寒川　真光
総務課長	増永　武夫
学生課長	下元　利之

令和５年４月１日現在

区分	区分	教員				職員	計	再雇用教員		再雇用職員	計
	校長	教授	准教授	講師	助教			特任教授	嘱託教授		
現員	1	22	20	6	3	42	94	0	2	2	4

令和５年４月１日現在

11 教員の研究活動等

外部資金受入状況（令和4年度）

種 目	件 数	金額(円)
補助金	4	72,735,428
共同研究	5	3,018,000
受託研究	4	3,797,200
受託事業	3	10,206,870
寄附金	28	13,584,581
教育研究支援基金	4	335,000
助成金	7	11,948,900

（間接経費含む）

科学研究費助成事業（令和4年度）

	代表者		分担者	
種 目	件 数	金額(円)	件 数	金額(円)
基盤研究(B)			4	1,560,000
基盤研究(C)	4	3,705,000	2	832,000
若手研究	2	1,430,000		
挑戦的萌芽研究	1	1,557,400		
研究活動スタート支援				
奨励研究				
合 計	7	6,692,400	6	2,392,000

（間接経費含む）
※当該年度入金件数・金額を計上

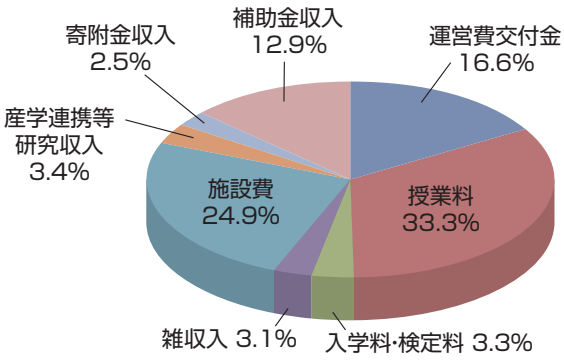
12 公開講座

公開講座等実績（令和4年度抜粋）

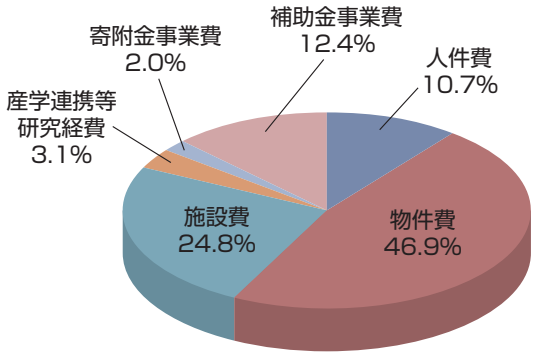
講座の名称	開講時期	受講対象者	募集人数	参加人数
社会基盤メンテナンス教育センター e+iMec 講習会 【基礎編（橋梁点検）】（2 日間）	4月～12月	行政機関技術職員 及び民間企業技術者	各10名	全10回 延べ104名
遊んで、学ぶ。不思議なパズルとフィボナッチ数列	6月	小中学生	10名	9名
マインクラフトでプログラミングを学ぼう	7月	小中学生	各10名	全2回 延べ27名
クレーンを作って遊ぼう！	7月	小中学生	10名	全3回 延べ31名
木製の時計を作ろう！	8月	小中学生	各10名	9名
ユカイな生き物ロボットをつくろう！ リモコンロボットをつくろう！	9月	小中学生	32名	26名
レオナルド・ダ・ヴィンチの橋をつくろう！ ～模型で学ぶ橋の仕組みと形～	9月	小中学生	10名	13名
発電×SDGs ～環境発電を体験しよう～	9月	中学生	12名	9名
住宅建築模型制作～建築家 安藤忠雄「住吉の長屋」模型をつくる～	10月	小中学生	10名	10名
光で遊ぼう ～紫外線ビーズを使ったアクセサリ作り～	10月	小中学生	随時	45名
聖夜を彩る光るクリスマスリース	12月	小中学生	15名	13名
建築業魅力向上イベント建設分野の最先端をまなぶ	12月	小中学生を含む 一般市民	随時	100名

13 収入支出額

収入（令和4年度）



支出（令和4年度）



収入額

内 訳	（単位：百万円）
運営費交付金	94
授業料	188
入学料･検定料	19
雑収入	18
施設費	140
産学連携等研究収入	19
寄附金収入	14
補助金収入	73
合　計	564

支出額

内 訳	（単位：百万円）
人件費	61
物件費	266
施設費	140
産学連携等研究経費	18
寄附金事業費	11
補助金事業費	70
合　計	566

※外部資金を含み常勤人件費を除く
※単位未満を四捨五入のため、合計と内訳が一致しない場合がある

14 土地・建物の概要

土地

内 訳	面 積	敷地総面積
校舎敷地	49,674㎡	126,695㎡
学寮敷地	23,555㎡	
運動場敷地	47,993㎡	
実験実習地	754㎡	
艇庫敷地	453㎡	
職員宿舎（浜）	666㎡	
職員宿舎（行永）	3,600㎡	

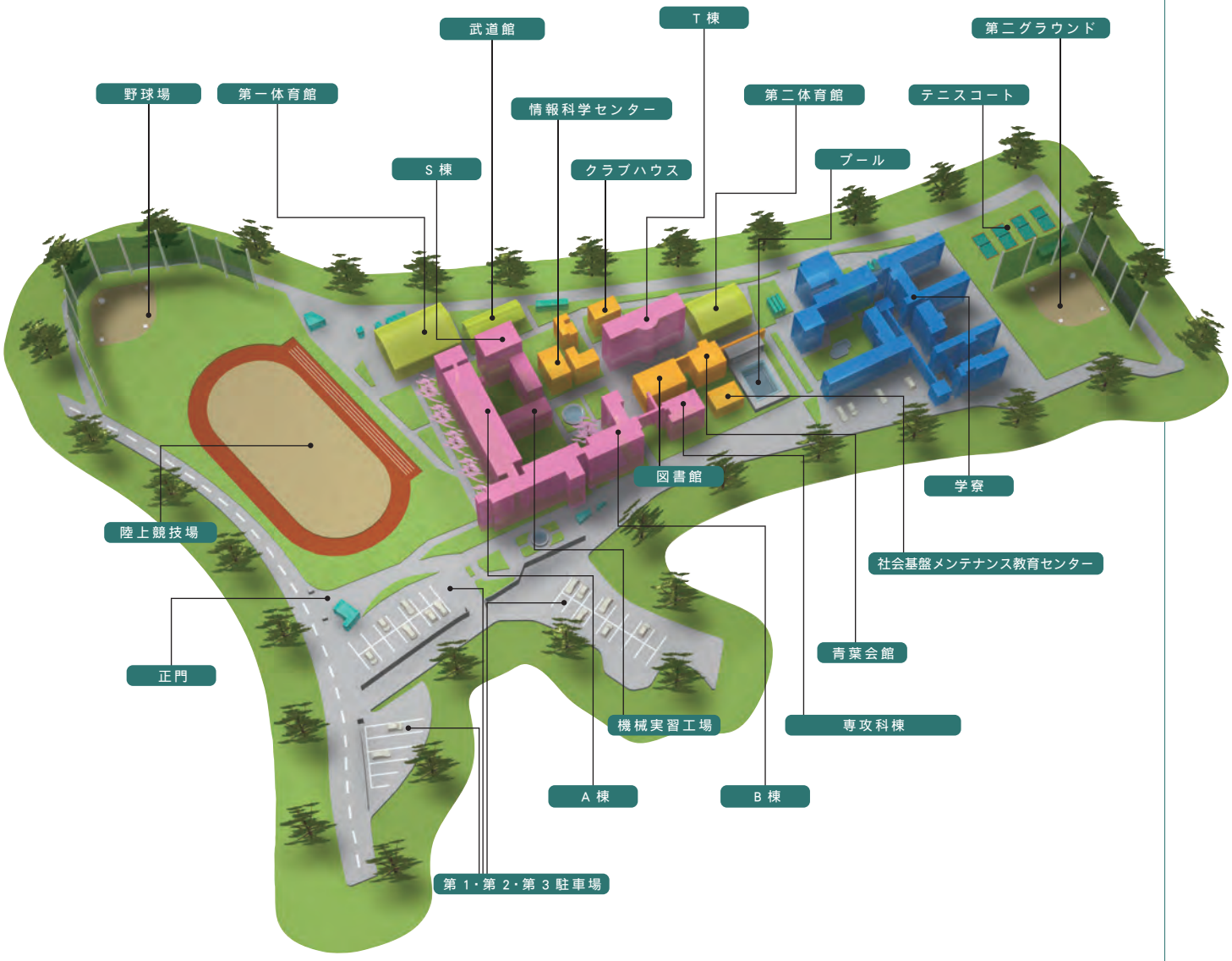
建物

区分	内　訳	構 造	面 積	完成年（改修年）
校舎	管理部及び一般教科棟	R-4	3,719㎡	昭和41年（平成14年）
	専攻科棟	R-3	991㎡	平成14年
	機械工学科棟	R-3	3,039㎡	昭和42年（平成14年）
	電気情報工学科棟	R-3	1,448㎡	昭和42年（平成14年）
	電子制御工学科棟	R-3	785㎡	平成5年
	建設システム工学科棟	R-4	2,554㎡	昭和46年（平成15年）
	共通講義棟	R-3	670㎡	昭和56年（平成14年）
	低学年棟 地域共同テクノセンター	R-4	1,854㎡	平成12年
	情報科学センター	R-1	300㎡	昭和49年
	機械工学科実習工場	S-1	673㎡	昭和42年
	社会基盤メンテナンス教育センター（教室）	S-1	37㎡	平成26年
	社会基盤メンテナンス教育センター（展示）	S-1	53㎡	平成26年
	図書館	R-3	1,653㎡	昭和48年
	第1体育館	S-1	1,719㎡	昭和42年
	第2体育館	S-1	906㎡	昭和55年
	武道館	S-1	531㎡	昭和44年
	青葉会館	R-2	699㎡	昭和57年
	体育器具庫	B-1	59㎡	昭和42年
	トレーニングセンター	S-1	129㎡	昭和52年
	車 庫	R-1	149㎡	昭和42年
	合宿所	S-1	215㎡	昭和42年
	クラブハウス	S-1	200㎡	昭和51年
	体育施設開放管理室	R-1	128㎡	昭和56年
	弓道場	W-1	40㎡	平成31年
	艇 庫	S-1	92㎡	昭和51年
	その他		507㎡	
	計		23,150㎡	

区分	内　訳	構 造	面 積	完成年（改修年）
学寮	1号館（2F～4F女子）	R-4	1,454㎡	昭和41年（平成10年）
	2号館	R-3	568㎡	昭和42年（平成28年）
	3号館	R-3	1,590㎡	昭和42年（平成28年）
	2･3号館（留学生）	R-3	112㎡	昭和42年（平成28年）
	4号館（女子）	R-3	1,193㎡	昭和44年（令和2年）
	5号館	R-3	1,610㎡	昭和46年
	6号館	R-4	2,399㎡	昭和59年
	7号館	R-4	1,655㎡	平成26年
	管理棟	R-2	191㎡	昭和55年
	管理棟（2F女子）	R-2	191㎡	昭和54年
	食堂･浴室		1,033㎡	昭和44年
	計		11,996㎡	

区分	内　訳	構 造	面 積	完成年（改修年）
職員宿舎	浜宿舎（1号棟）	R-2	149㎡	昭和61年
	浜宿舎（2号棟）	R-2	149㎡	昭和61年
	行永宿舎（1号棟）	R-5	677㎡	昭和57年
	行永宿舎（2号棟）	R-5	1,354㎡	昭和57年
	その他（行永）（ポンプ室等）		18㎡	
	計		2,347㎡	

学校配置図


武道館
T 棟
第二グラウンド
野球場
第一体育館
情報科学センター
第二体育館
テニスコート
S 棟
クラブハウス
プール
図書館
学寮
陸上競技場
社会基盤メンテナンス教育センター
正門
青葉会館
機械実習工場
専攻科棟
A 棟
B 棟
第 1・第 2・第 3 駐車場

学校位置図

青葉山
バス停
国立高専前
松尾寺
日本板硝子舞鶴工場
海上自衛隊舞鶴教育隊
朝来小学校
舞鶴湾
舞鶴市役所
東舞鶴高校
志楽小学校
JR 松尾寺駅
27
赤れんがパーク
国道 27 号線
JR 東舞鶴駅
至 小浜
至 宮津
舞鶴東
インター
チェンジ
JR 舞鶴線
27
JR 西舞鶴駅
舞鶴若狭自動車道
至 京都
国立舞鶴工業高等専門学校
東舞鶴駅から京都交通バス
朝来循環線に乗車　国立高専前で下車。
（大波下経由約 10 km　安岡経由約 8 km）
松尾寺駅から徒歩 25 分

NIT.
Maizuru
KYOTO

国立高専機構 舞鶴高専

National Institute of Technology (KOSEN), Maizuru College

〒625-8511　京都府舞鶴市字白屋 234 番地
234 Shiroya, Maizuru, Kyoto, 625-8511 Japan

電話 (0773) 62-5600　ダイヤルイン
Telephone
62-8861　総務課（総務係）
62-8862　総務課（地域連携・研究推進係）
62-8871　総務課（財務係）
62-8881　学生課（教務係）

FAX.(0773) 62-5558　総務課（総務係）
Facsimile
62-8879　総務課（財務係）
62-8889　学生課（教務係）